

97
459

中島鉄哉著

今のブラジル

蒼泉堂蔵版

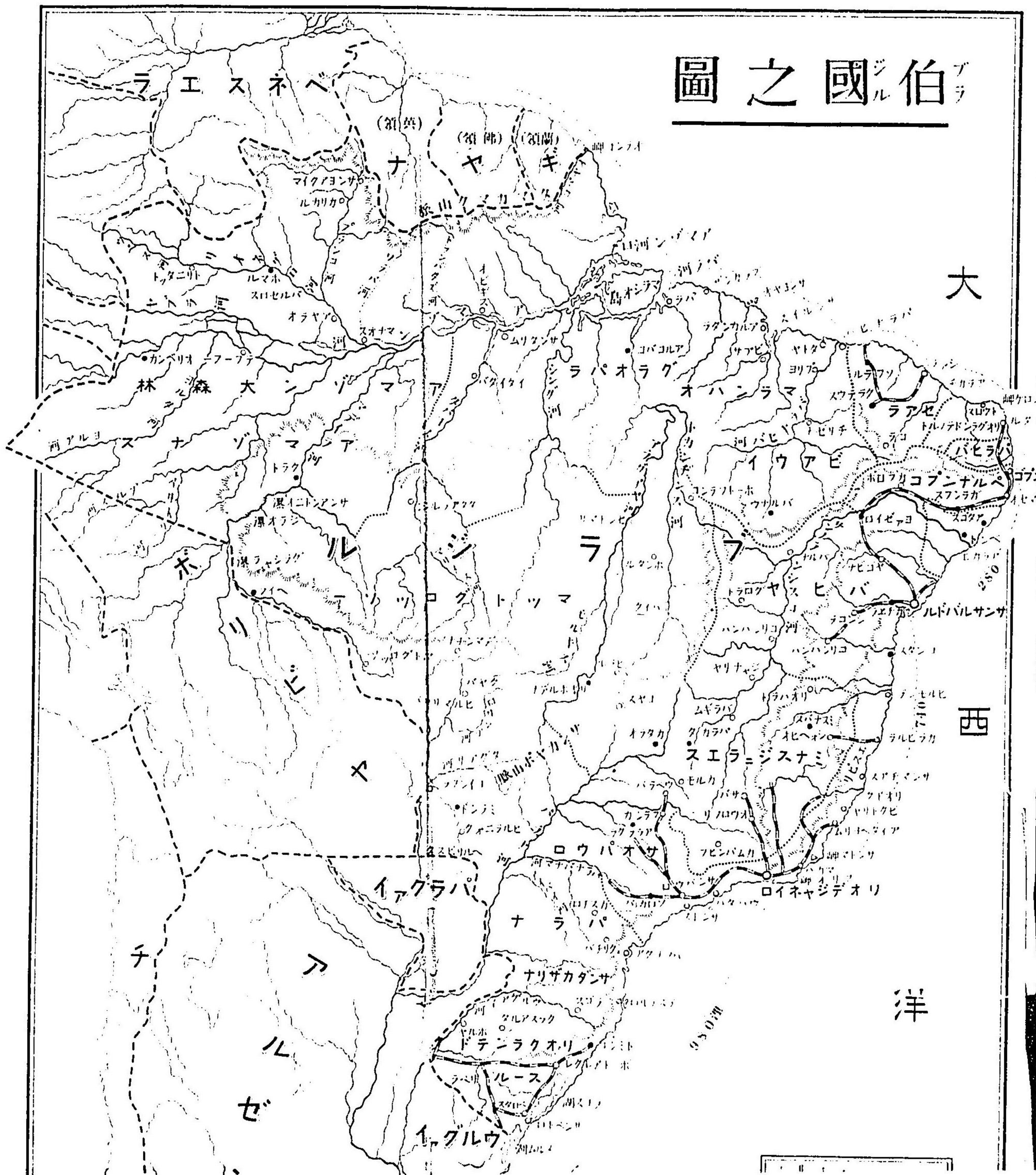
97
459

中島鉄哉著

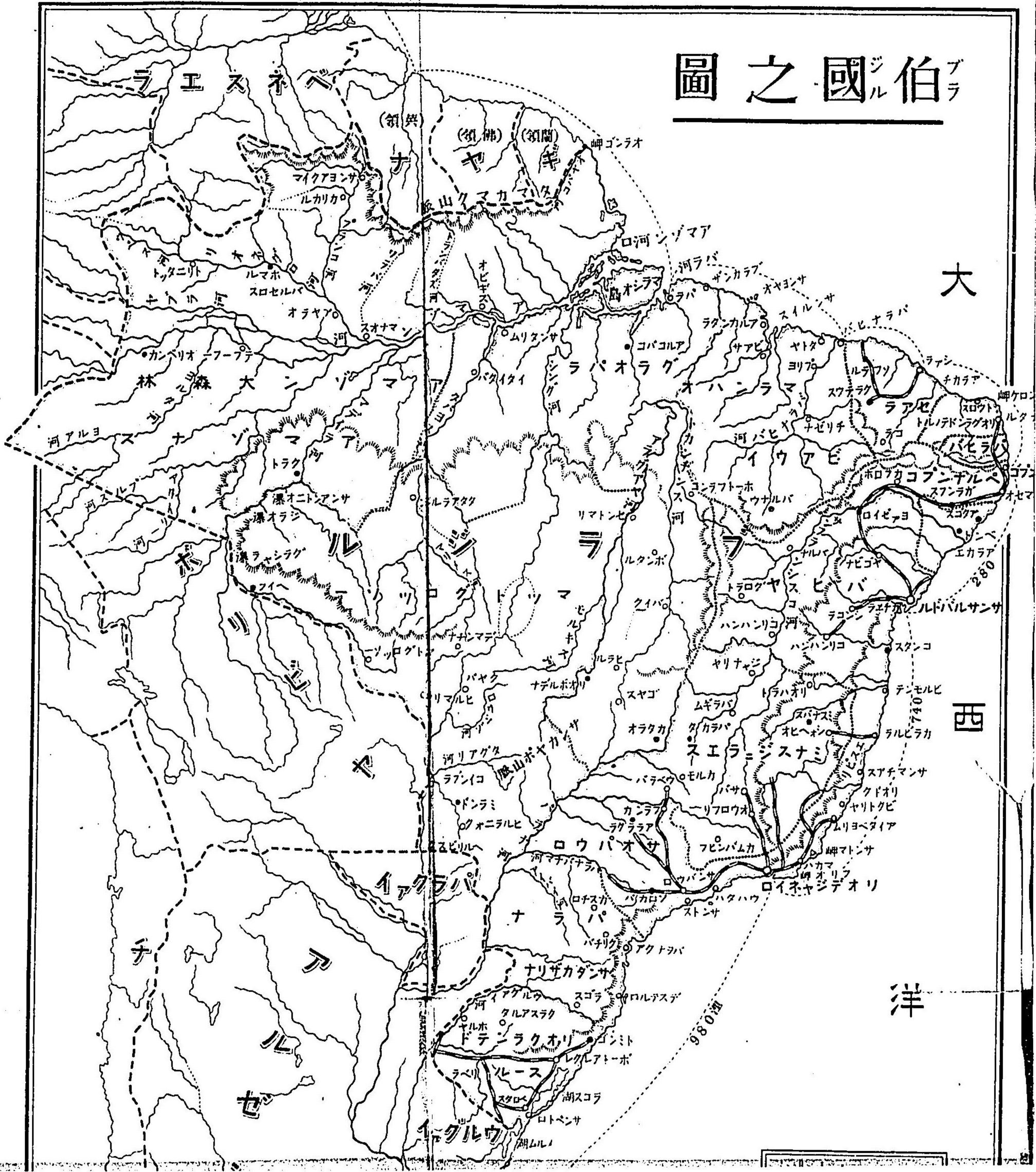
今のブラジル

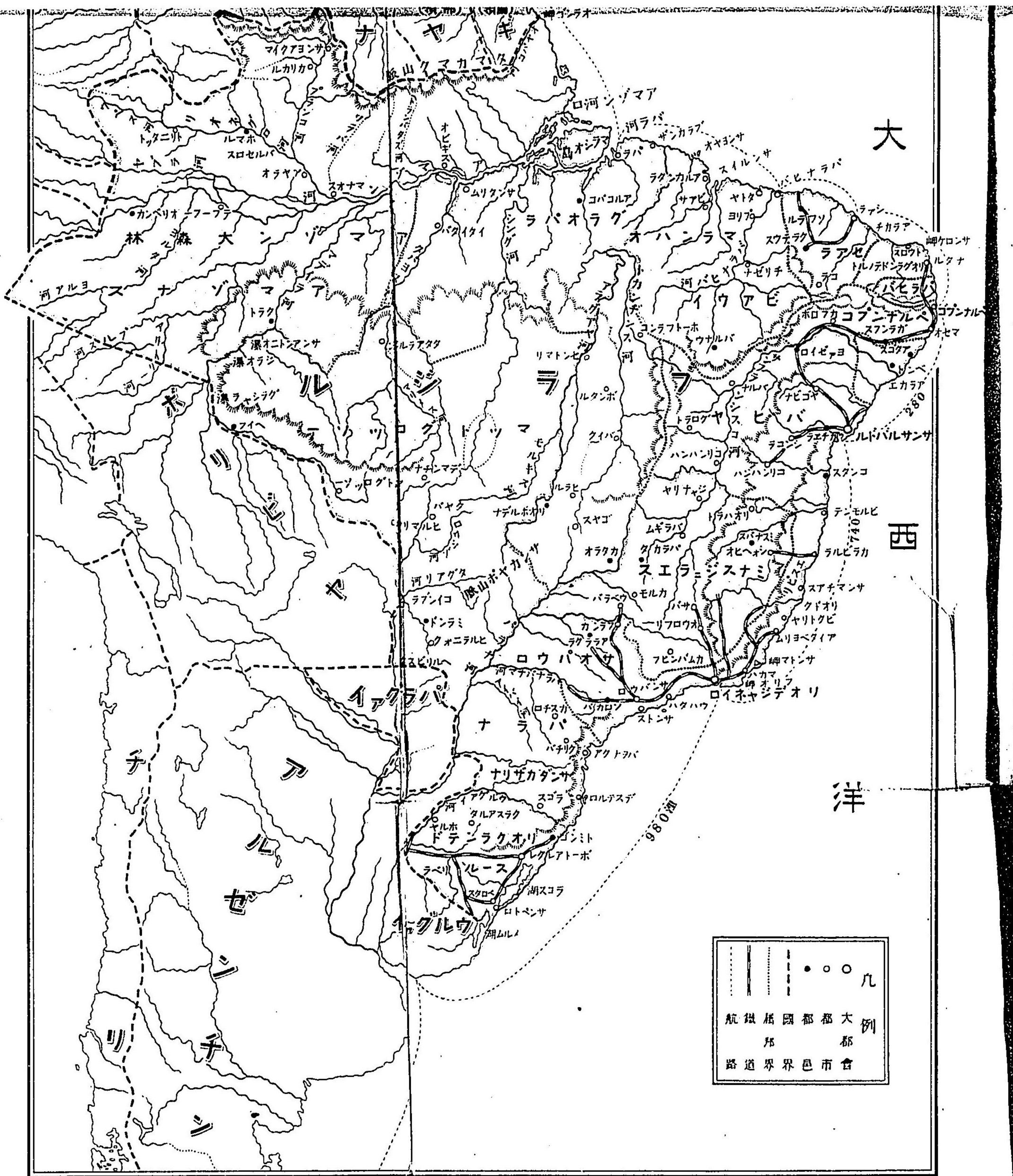
蒼泉堂蔵版

圖之國伯



圖之國^ジ伯^ラ



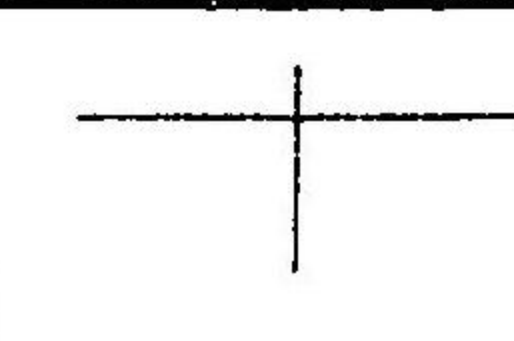


大

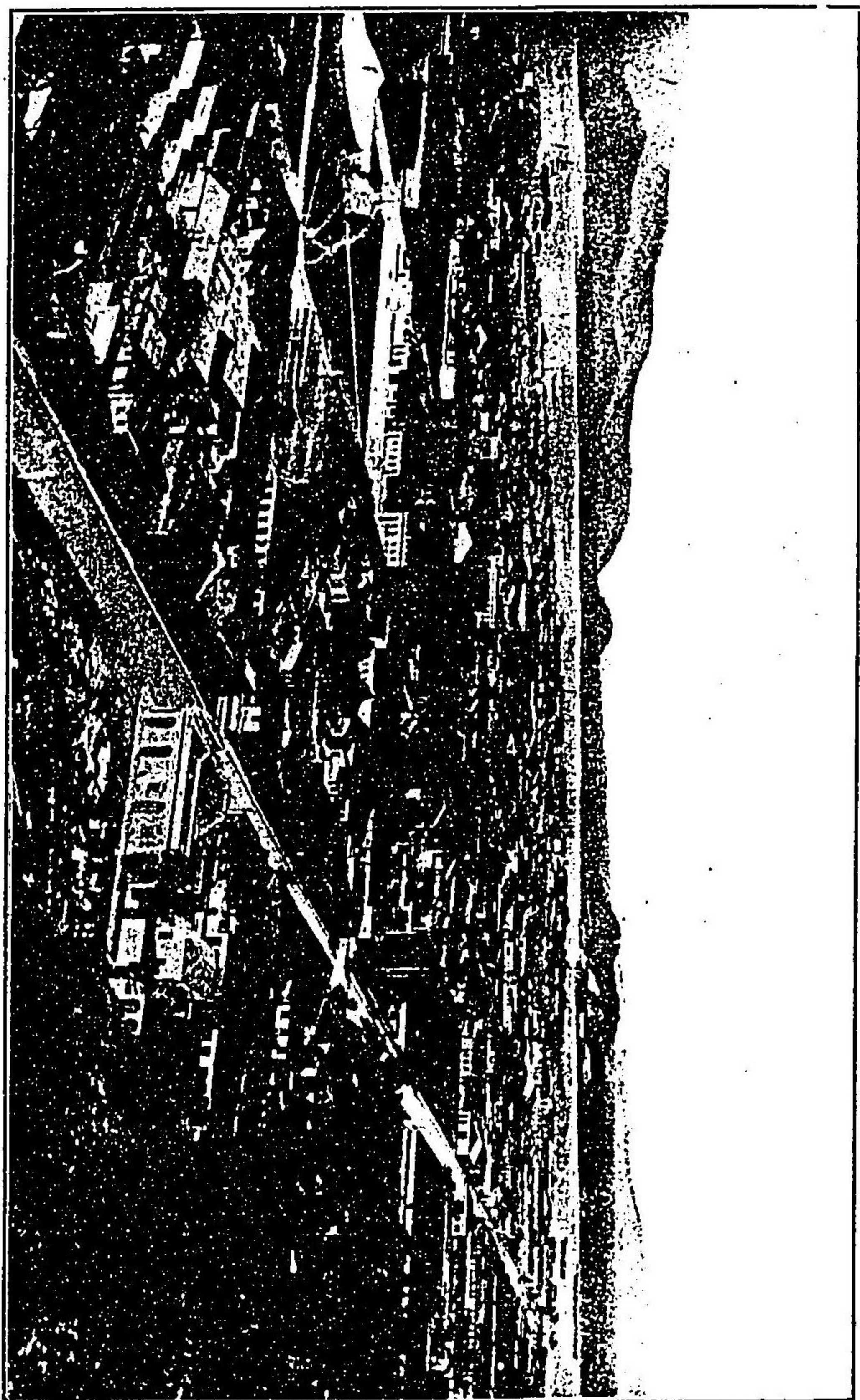
西

洋

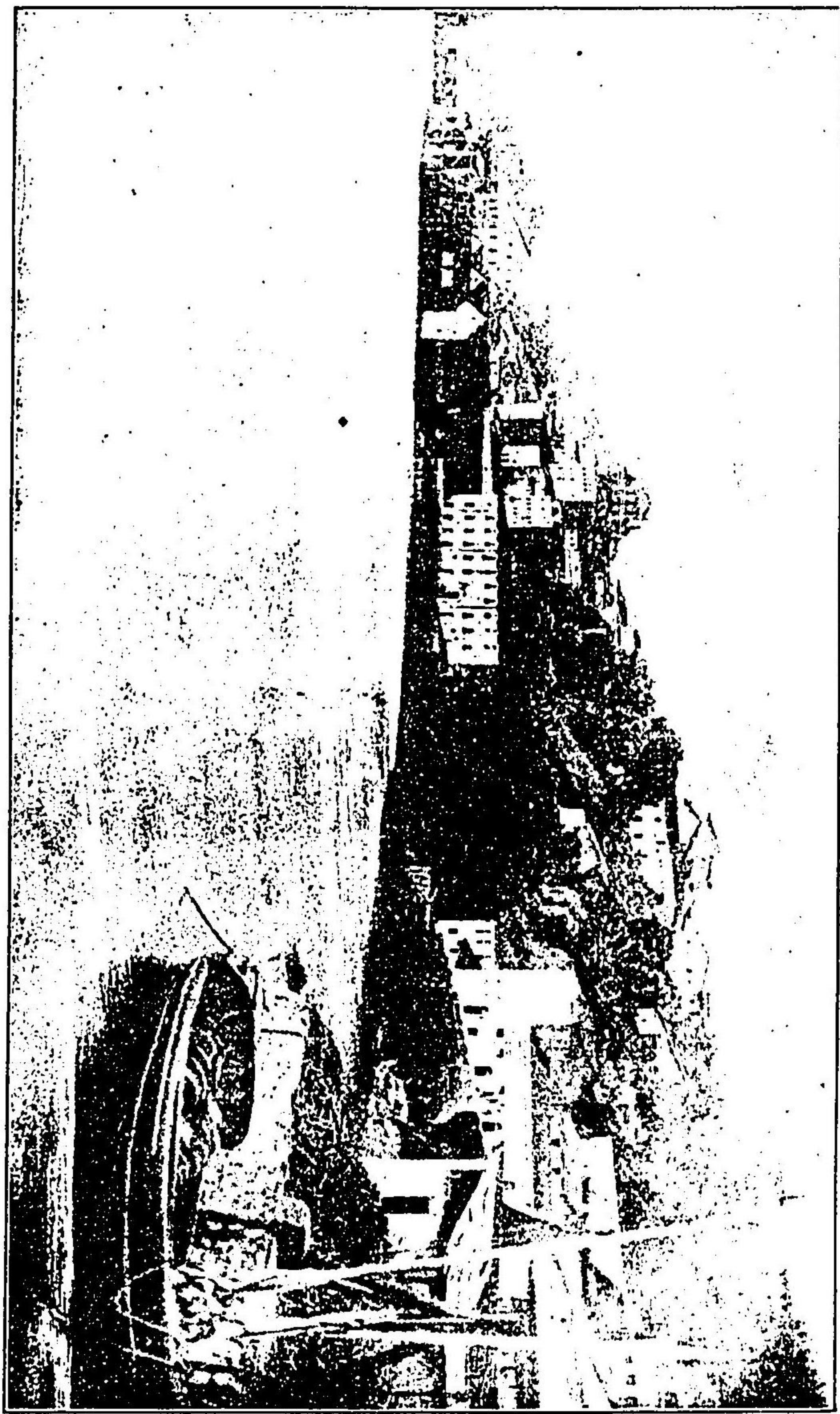
⋯⋯⋯	⋯⋯	⋯	●	○	凡
航	鐵	橋	國	都	都
邦	郡	郡	郡	郡	例
路	道	界	界	邑	市
					會

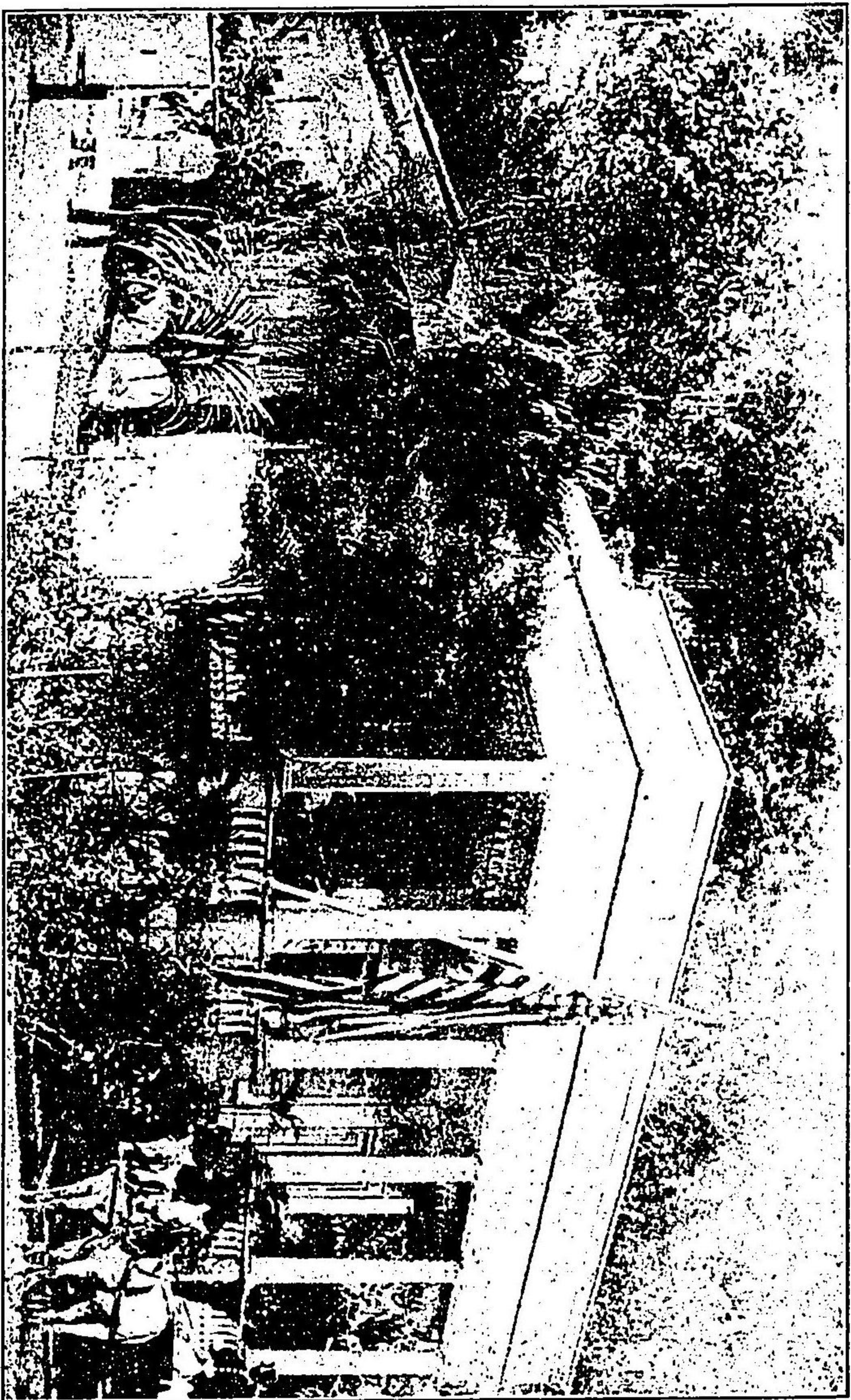


サントス市全景



岸海のアヒバ





在 英 國 米 爾 公 使 館

伯國殖民史

一千四百九十九年

高里達征率なく艦隊を海に

不官民の得意如何なりしと

王の別名を冠せるドムヘン

齊に成果を結び葡人の遠征

めるの觀ありき逸るに逸れる

プラルを將として隻數十三海員千二百人より成る大艦隊を議し再び印度に向はしむ、アラッルの發見は實に此時にして而も極めて偶然の出來事なりき發するに臨み海將カプラル豫め亞非利加の急潮と逆風を避けんと欲し先づ針路を西にさり更に

マ喜望峯を迂回して東印度に入るの航路を發見し

陸してリスボン府に歸航するや歡呼に熱中せる葡

るぞ實に意氣衝天さば之を云ふなるべし彼の冒險大

親王逝てより四十年の星霜を経て其の遺業は今や

達し意氣既に地球を吞

べき翌くる千五百年にはカ

明治

40 6 21

内容

南下せんを企て海路遙に西航せしが意外にも一大陸岸に漂着せり是れ即ち伯國に
して發見せるカブラルの驚喜一方ならず艦隊の一艘を分ちて本國に特派歸航せし
め具さに新大陸發見の珍事を國王に奏聞し己れは直に印度に向ひぬ即ち葡人の支
那に初航せし年に先つこゝ十七年、ピントーガ初めて日本に漂流せしに先づ四十七
年前に於て伯國を發見せるものとす是れより先き西班牙の航海者ビンゾンなる者
同年千五百年一月二十日伯國に漂着せるの事實を傳ふるものあれど正確ならず、
斯くの如くにして發見せられたる伯國も多年の間葡人の東印度貿易に熱中して他
を顧みるに遑なかりし爲め久しく閑却せられ僅に追放猶太人が歐洲政府の迫害に
堪へかねて密航し伯國に自由の新天地を求めんとする者に非ざれば流囚の外、伯國
に渡來する者あらざりき。
されど隠れたる寶は何れの時か其光彩を發して燦爛人目を射るの時節到來せずん

ばあらず果然ブラジルの世に現る、秋は來れり千五百二十一年エマヌエル大王崩
御、ジョン三世立つて王位に登りブラジルに一種の封建制度を布きぬ即ち貴族に許
すに分有割據を以てし伯國海岸の一定距離を標準として大名の封域を定め内地は
無限に領有すべき自由を與へたり殆ど我が徳川治下の其れの如く領主は文武の權
を秉り其封土を割りて臣民に與ふるこゝも亦本國政府の認許する所なりき、右の貴
族の中にアルバレスなる者あり巧みに土民を懐柔し伯國に留まるこゝ數年後ち葡
萄牙に歸り織んにブラジルの好望を唱導して止まず、されど不幸にして葡人は未だ
耳を傾けざるなり彼は唯冷笑痛罵を以て酬ゆられたるに過ぎざりき唯セシユート
派の教徒のみは此時よりブラジル土人に天の福音を傳へ教民に化せしめんものと
奮つて渡航する者漸く多く孰れも相當の成功を收めつゝ遂に千五百八十年を迎へ
ぬ此年にこそ伯國殖民史にこりては恠に重要な新紀元なりとす、

千五百八十年西班牙のフィリッポ二世兵力を以て葡の王位を奪ひ、征服前の約に背き亡國民の權利を蹂躪し暴政苛烈、虎威を振ふ、重斂に苦み膏血涸れんさせし葡人遁れ、アラジルのに渡る者は是れより漸く多く、葡國既に滅びて、印度亞非利加南米の屬領今や亦た葡國の有にあらす、されど洋の東西に萬里を隔つる東亞南米の大領土はフィリッポ二世の權威嚇々たるを以てするも固より統治の實を擧げ得べき理なく、實際に於ては此時より世界に開放せられたるに均し、アラジルのが和蘭人の來寇侵略を蒙りしは即ち此時代にして、アラジルの移住の葡人が健闘奮戰、纒に危運を挽回せしは本編後に説く所の如し、

千六百四十年アラガンザ公ジョン葡國の王政を恢復して再び獨立國となせしまで六十年間母國の雌伏時代に於けるアラジルのは徐ろに發達し東洋の屬地は殆んど葡國の手を離れし後に於てもアラジルののみは飽くまで葡萄牙の領土として始終一貫

の歴史を保ちたるなりき、

傳道師の勢力は葡國政府をして割合にアラジルの土人に庇護を加へしめ既に千五百七十年勅令を以て一たび土民を奴隸となすを禁じたることあるも奈何せん廣漠たる沃野を抱へて之を開發すべき人手の乏しきに苦しむの餘り奴隸の賣買は尙ほ熾んに行はれ土民使役に關する法令も無視せらるゝこと多年、宰相ボンパール出でて同法を勵行するまでは此弊風は尙ほ滔々としてアラジルのに行はれたり、

土民の自由稍確保せられてより勞力の缺乏は主としてアンゾーア群島より輸入せる黒奴によりて補充せしも是れすら嚴密なる制限の下に支配せられ伯國が獨立國となれる近代に至るまで外人の移住を許さずして葡人のみにて此別天地を經營せんと企てたるもの、如し、さればアラジルの貿易の如きも千七百五十年頃には非常に發達して葡國と伯國との貿易額は葡萄牙貿易總額の半に達したるにも拘はらず依然

として葡人の獨占到歸せしむに腐心し宰相ボンパールの如きは「ブラジル」貿易を二個の特許會社の手に委ね一は「ペナンブコ」を中心とし他は「マラノーン」方面の通商に従事せしむるを命ずるに至りぬ、されど其結果は却て貿易の萎微を來したるなりき、貴金屬の採礦は千六百九十一年に始まりポースト人即ち流囚と土民婦女の間に生れたる種族によりて經營せられ來れり、金剛石發見は之に後る、三十年爾來「ブラジル」は次第に繁榮に趨きたるも葡政府は嚴密なる檢束を加へて或は從業者の數を限り或は特許會社の數を定め採掘額を少くして市價を高むるに焦心し許可なくして金剛石産地に近くを禁じ犯すものは死刑を以て臨むに至りぬ、

爾來葡萄牙が英國の勢力の下に餘喘を保ちて近世に入りしまで伯國殖民史上特書すべきものなく、單に緩徐なる發達を遂げたりと云ふを以て足れり、然れども伯國が葡萄牙と分離して獨立となれる始末は茲に大要を述ぶるの要あり何んとなれ

は伯國の殖民史は是より飛躍活動を重れ光彩隆離たるに至りたればなり、

千八百七年那破翁一世の提議により葡萄牙分割の謀を佛西兩國間に畫策せらる、蓋し葡の英に親善なりしの一、事、那翁の忌諱に觸れたるに外ならず、同年十二月一日佛軍の一隊葡萄牙王を獲人として突如として首府「リスボン」に殺到す、幸運なる哉、葡萄牙王は危機一髪の間、王族を擧げて「ブラジル」に脱奔し、帝都を伯國に移す、斯くの如くして千八百二十一年に至れり、此の遷都時代に於て伯國は全く其面目を改め通商貿易上の拘束は解かれ移民の制限は撤せられたり、千八百二十年初めて組織的移民の一隊「ブラジル」に來る、此先登者は、瑞西農夫の一隊にして「ノヴァ・フンボ」(Nova Friburgo District)を殖民地と定めたり、之に次で來れるものは、即ち獨逸人にして、時は千八百二十四年、其旅裝を「サンレオホルド」に解て、此處を第二の故郷と撰定せしなり、是れ八十年後の今日各國移民密集の中樞にして、殷盛

を極むるの地點たり即ち今日の獨逸人は其系統を八十年前彼等の先祖がレオポルトに移住したるに起するものたるを記憶せざるべからず

伯國移民の初期に於ては各自政府の事業なりしも次で民業の時期に入りしが伯國内地の民情も奴隸時代より自由労働者となり労働者は地主に進轉するの新現象を呈するに至れり、

一方には銀行設立せられ教育機關改良せられ産業の保護振作道路修築亦着々として施されたり要するに伯國はジョン六世の統御の下に十九世紀の曙光と共に長夜の夢茲に破れたると共に深酷なる感激に打たれて覺醒的突進を始めたるの觀あり、されば千八百二十一年四月二十六日葡王蕙都リスボンに遷幸せんとして伯國を發するに當りては最早やブラジルは進運隆々到底一殖民地として甘んぜざるべき狀勢を呈したるも歸心矢の如くなりし葡王は皇太子ドムペドロ親王を伯國に留めて

ブラジル太守たらしむるの政略を執りぬ然れども四圍の狀勢と人民の懇語とは遂にドムペドロを驅りて獨立の布告を發し自らブラジル帝と號せしむ時に千八百二十二年十月十二日なり一方に於て葡萄牙王は本國に於て王政復古に忙はしく伯國獨立に關し異議を挟しむの餘裕を有せざりしかばブラジルの獨立は容易に確立し葡國は其の最も貴重なる唯一の大殖民地を失ふに至れり、

爾來千八百七十年頃即ち明治三年頃までは毎年歐洲各國より移住し來る渡航者の三分の二は葡萄牙人なりしが孰れも純然たる自由渡航者にして契約移民には非ざりしなり彼等は職業の尊卑を問ふものに非ず從て其職業を得る頗る容易にして官廳若くは移民會社を煩さざるも若々職工或は擔夫となり奴隸監督となり若くは行商卸商其他種々の職業に従事するの有様なりしかば葡人の勢力は人員と共に偉大なるものとなりぬ斯くて彼等の多くは數年苦難を嘗め母國に於ける田園に歸臥す

べく充分の蓄財を獲て揚々として故山に歸り祖先歴代住み慣れし蓬屋を毀ちて其跡に宏壯なる邸宅を構うるもの甚た多かりしかば之を目撃せる葡人の先を争ふて伯國に赴きしもの幾万を算せしは固より怪しむに足らざるなり、

獨り葡國のみに止まらず一般歐洲に於て伯國移住の好望噴々として歐洲各國朝野の間に喧傳せられたれば歐洲人は恰も潮の湧くが如く伯國に入り來れり即ち千八百五十年より千八百七十年まで毎年平均七千乃至一万人づゝ渡來せしもの、次の十年間は毎年二万人となり其以後の十年間は五万人より十万人となり千八百九十一年は「リヨ」「サントス」「デステルロ」の三港より上陸せる歐洲移民のみにても尙ほ二十一万九千人を數ふるに至りぬ、しかも此以外に「ヴィクトリア」「バヒヤ」「バルナンブコ」「パラ」に到着せる夥しき移民ありと云ふに至りては實に驚くべきあるに非ずや、かくて如上の多數移民が踵を接して各地に進ませしも茫々たる沃野は或は砂糖に珈琲に金剛

石採取に銀鑛に牧畜に益々開發せらるゝ一方となりたれば政府も益々移民を歡迎するの方針をとりて明治三十七年の如きも九万四千五百七十六人の新渡航者を迎へたるなりき、

中に就き伊太利人最も多數を占め千八百九十二年に於て既に十萬を算し最近の調査に據れば伯國全部に於て六十萬を超へ千九百四年には伊人百萬葡人八十萬獨人三十萬西班牙人十萬奧人十一萬波蘭人八萬佛人一萬英人五千米人五百總計二百七十六萬五千人而して我が日本人は外交官以下數名の官僚并に本年に入りて渡航せる數名を除けば我が日本人にして此無盡の寶庫に入りて新運命を開拓せんを試みるものあるなし、有爲の諸士よ何んぞ先んじて伯國に入り其の理想を現實せんを力めざるや、

伯國は獨立せり然れども其の國民の精神に於て純乎たる葡萄牙人たるを失はず唯

移住民たる他國民族との雜婚と新大陸に充溢する自由の風とは次第に伯國人に清
新の氣を興へ自由を尙ぶ傾向を養ひ漸く王政に倦み來り千八百八十九年十一月十
五日流血を見ずして革命は遂げられつゝドムペドロ二世の追放を以て新共和政は
布れたり是れ況く世人の知る所茲に贅するの要なからん。(終)

今のブラジル

中嶋 鉄 哉 著

第一章 ブラジルは何んな邦？

世界共和國の數ある中に伯國の共和政體は未だ穉氣を帶て居る其
も其筈王政を覆して共和國となつてより漸く十五年になるやなら
ずであるから、けれども此國が發達して今後何んな偉い邦になるで

若々しき
共和國

あらうかは恐らく何人とも豫言することは出来まいと思ふ何を云ふにも國を分つて二十一州其一州の「サンパウロ」のみに付て云ふも發達の勢の目覺しさ驚く許り今假りに「オンボロ」州が伯國と分裂しても立派な一個の獨立國となり得る資格と實力を持つて居るのである。されば右二十一州に付各自の政治機關も備はり相當の政治家もあつて人民は州を愛し州を自滿する風があるので他の南米諸國が聯邦の連鎖強き間に立つて伯國は獨り聯邦自治權の強き點に於て異彩を放つが如くに見ゆる。

しく思はるゝ例へば「マツトローグロツ」州のみで北米合衆國總體の六分の一と云ふ面積で中央政府から官吏を同州に派遣するに汽船で一ヶ月を要する。即ち「リヨ」府から「マツトローグロツ」の都「キヤーバ」市まで路程三千八百四十哩あるのである。

更にアマゾン沿岸の都會「マナラス」までも「リヨ」府から一ヶ月の行程でアマゾン河口の「バラ」と「リヨ」府との距離などは、北米合衆國と「リヨ」府程の遠距離である。斯くの如き大國は先づ南米の露西亞とでも云ふべきもので其廣袤合衆國からアラスカと海外殖民地を除いたものに均しく世界中第五の大國にして人口から云ふも廣さから云ふも南米利加の半分を占めて居るのである。

伯國は葡
人的大陸

見るに大
な遠は

世人稍もすれば一概に南米大陸を西班牙的大陸と呼ぶ、しかしながら南米の面積と人口の半を占むる一千八百万の伯國人は葡萄牙人の子孫で葡國語を用ゐるのである。から寧ろ葡萄牙的大陸と稱する方適切ではあるまいか。
要するに伯國は南米諸國中確に異彩を放つてゐる國で其の國民の風俗習慣品性に至るまで一種の特色がある。
伯國こそ見るに聞くとは大なる遠は試みに諸君が「ブラジル」を想像するに低い濕地で所々に珈琲や護謨の農園が有つて他は廣い涯りなき、深林ばかりの黄熱病猖獗の所と思はるゝであらうが實際の伯國はソナナ邦ではないので地味と云ひ産物と云ひ北米合衆國と異なる

世界一流
の健康地

スール州
の穀産畜

所ないのみか伯國の大部分は確に健康地である「アマゾン」沿岸地帯でさへも一年の多分は氣候清涼で決して瘴程の酷熱瘴癘の場所ではない。
特に南ブラジルに到りては伯國中の健康地で南伯國の或る地方の如きは世界第一等の健康地と稱せらるゝ程であるが概して高原多く此邊には百五十万の人口を有する「サンパウロ」を始めとして其背後には四百万人の「ミナスゲラエス」州があつて前には「リヨグランデ」州がある。
「リヨグランデ」州は小麦と肉類を産する耕農地で牛羊數十万頭を有する大牧場が數へ切れぬ程なるが其牛肉罐詰工場の一年

製造額は優に一千七百萬圓に上るを見ても其盛況の一斑を察するに足る、されば「ペロタス」一市のみにてもスー、蠟燭動物肥料の工場、の煙突林立して其屠牛數一年三十万頭を超ゆるのである。

「リヨグランデドスール」州には市街鐵道大學日刊新聞の備はつた都會が多い州首府たる「リヨグランデ」一府は日刊新聞が五社「ポルトアルグレン」市は六社「ペロタス」市には四社もある。

實業界に於ける英人の勢力範圍は重に銀行事業で他の商賣は殆んど獨逸人の事業ならざるはなし各種の商店は勿論葉卷煙草の工場や麥酒釀造など悉く獨逸人の占むる所となつた、それも其筈、此州は西獨逸人の別名ある位で總人口の六分の一は獨逸人であるから。

近來多數の伊太利人葡萄牙人が此州に入り込んで来たものの諸工業も凡ゆる輸出貿易も依然として獨逸人の掌握する所で此州の財産の四分の一は獨逸人のものと云ふ程であるから一朝伯國と獨逸と葛藤を生じた場合には「リヨグランデドスール」州は分離して獨逸皇帝の保護を求むるであらふ。

「リヨグランデドスール」州の酷暑は一月で寒暖計は百度に上ること珍らしくない七月は極寒で雪も度々降るが氣候は華盛頓府位のものである此州の北は即ち「パタナ」州と「サンタカタリナ」州で「リヨグランデドスール」州と左して異なる所もないが唯漠々たる無人の廣野が一層多い然し遠からず歐州人の開拓する所となるらしく想はる

る。

伯國中第一の佳郷で北米合衆國の消費する全部の珈琲を産出する有名なる「サンパウロ」州は前記二州の北に當る所で人民の富裕なる世界最富の國に位して毫も遜色なしと云ふ状態地勢は概ね高地で海岸の細長い、一帯の地のみは低地である地質は赤味がちの肥沃土壌で各種の野菜果實珈琲は云ふ迄もなく種々の穀物を産するが海岸は甘蔗栽培に適し伯國の最初の砂糖は「サントース」港邊から産出したものであつたが近來は皆砂糖を止めて珈琲を作り珈琲の爲に巨萬の富を累ねた人は夥しく首府「サオパウロ」市の如き殆んど富豪の巢と云ふてよろしいされば「サオパウロ」人を呼ぶに普通「パウリス」

タス」と稱へ是れが伯國人中の精華と見ねばならぬ彼等は即ち「ブラジル」移民の元祖で昔は土人を捕へ來つて苦役せしむる一種の誘拐者であつた其昔彼等が住み馴れし本國を離れて煙波漂茫たる大西洋の荒浪を蹴り「ブラジル」に南下してより近代に至るまで茲に恰んご三百年其間彼等の誘拐した黒奴の數は二百萬人を下らぬと云ふが今日の彼等はソナ忌むべき事で有名なるにはあらずして喜ぶべき方面に發達したのである即ち伯國の最も進歩せる鐵道も彼等の所有で其州政府は整備の點に於て亦國內第一の稱がある州政府の歳入は重に輸出税なるが珈琲のみにても夥しく税源となつてゐる。

「サオパウロ」市は管に伯國最大の都會であるのみでなく南米に於ける最富都會の一に數へらるる前には「サントース」の輸出港を控へ後の珈琲園は鐵道を以て連絡し恂に四通八達の形勝を占めてゐる、ホテル等は立派なもので流石豪華な米人も居心よいのに驚く位市街を散歩すると宏壯な美しい建築が多く堂々たる店舖軒を聯ねてゐるので先づ市民の金遣いが如何に荒いかを想はしむるのである。米國並に加奈太資本は續々「ブラジル」に放資せられて電力並に電燈事業の經營に着手せられんとす其最も大なるは「リヨデジャネ」に電車電燈電力會社と稱するものにして諸所にて三十年乃至五十年に亘る電車電燈業の營業特許を得たり之に對抗の姿なるは獨逸の事

業家にして獨逸南米銀行を後援とし好個の放資特權を獲得せること夥しき數に上れり。米人の勢力圈内たる前記リヨ電車電燈電力株式會社は一昨年加奈太の會社法に準據し加奈太にて設立せられ本社を「トロント」府に置く資本二千五十萬弗外に社債二千五百萬弗を有す株主は概ね米國並に加奈太の電氣事業に關係を有する富豪にして重役はウイリヤムマツケンジー氏等なり此の社の主眼とする所は水力電氣を起しリヨ府其他に使用せしめんとするにあり既にバラヒバ河(リヨ府より八十哩の距離)に於て一ヶ所の瀑布を使用するを許され十萬馬力を發電せしむるの計畫なるか外に數ヶ所に於て四萬馬力の水力發

電所を有し此等は將に發電の運に達せんことす會社重役の語る所に據ればリヨ府一市のみにて今既に二萬馬力の需要を有し將來電力應用の利便一般に知らるるに至らば著しく電力の需要を増すに至るべし。

同會社はカルリスウルバノス、サオクリストヴァオ、ヴィライサベルの三街鐵會社を買收せるの外カリオカ會社に密接の關係ありこと云へばリヨデシヤネロ府の街鐵全線はバタニオカ社線を除て悉く占有するに至りたるものと云ふも可なり而して如上の各社線は馬車に代ゆるに電車を以てする真最中にして明年中には悉く變更工事を了るべし。

街頭の光

右街鐵電燈電力會社は更にリヨ府瓦斯會社の權利を繼承し千九百四十五年まで市中イルミネーション一手引受の權利を有す全社近頃に至りシメンスハルスケ商會より電話會社の財産を引受けたるが右電話業の特許期間は三十年間なりと云ふ。

曉起試に窓を開いて街路を眺むれば可憐の童男童女が學校に通ふのが見へる少女は帽を戴かぬが童子は帽子を被り膝までの短袴、腰も露はに教科書を背にして圓石を敷き詰めた人道を勢よく歩いて行く、すると街車が来る、多勢乗る車の跡は亦車陸續として學校へ向ふのである。

と見ると貨物を積んだ車が来る、上等の馬車は荷物携帯を許さぬか

ら朝市へ行つて買物をする連中は此荷馬車に乗らねばならぬ
 今度は新聞を満載した車が来る「サオポウロ」には六大新聞があるの
 で新聞賣子は辻々に立つて盛に賣てゐる。

黒人は中々多い恐らくは華盛頓より多いらしい働に行く労働者は
 白黒黄色人種の混合で何か「ヤア」「ヤア」と笑いながら通る其笑
 聲は亞米利加土人其儘で唯言葉が葡萄牙語の差あるだけである。
 郊外を逍遙して民家を見るに合衆國の邸宅に勝ることも劣る所なく
 公共の建築物に入つて見ても合衆國の州首府と甲乙ない特に「サオ
 ポウロ」の師範學校の建築などは合衆國の諸大學中にもあるまいと
 思はるゝ程の壯麗偉觀！

サオポウロに行くにはサントー港に上陸するは順路なるが扱て
 此港は時々悪疫の行はる不健康地と見へ割合に風土に慣れた水夫
 ですらも黄熱病の流行する時には續々として斃れる爲め或る船長
 などはサントー港碇泊中船員の上陸を禁止し亦或る汽船會社は
 附近の小島を買収して所屬汽船の碇泊中は乗組は其島にのみ上陸
 宿泊を許すことにして居る位。

けれども風光頗る明媚船大西洋を航走し來りて灣内に入るや右に
 左に其針路を屈曲して錨地に着するので船内より市街を眺望すれ
 ば山の麓に白堊の高樓石造の大厦が種々の色に染められて整然と
 並んで見へ小山も島も滴らん許かりの綠樹に包まれ中々の絶景で

ある心柄でもあらうが何故にや漫遊の客が此地に着て彩色した家々の邊、棕櫚深く繁り扉の如く擴がれる葉がシダラなく且つ力なげに垂れ下つたのを見るとき何となく物淋しく感せずには居られない、海岸近くには那威や英國や伊太利米國の商船旗を翻した汽船の孰れも珈琲積入れに忙しき中に黒奴は盛に袋入珈琲を海岸の倉庫から積取船へと搬んで居る、埠頭は花崗石、其片側に船を横繫にして波止場の他の片側にある大倉庫から珈琲を搬び入れる設備となつてゐる。

若し汽船が埠頭を離れて灣内に碇泊すると徒跣の葡人が来て手荷物を通船に乗せ、税關を経て停車場へ運んで呉れるが其小船に乗つて上陸するとき鏡の如く澄める海面から一種の臭氣の鼻を衝くのを覺ゆるてあらう宛然長く日光に曝されて腐れた天水桶の臭氣の様、此時船頭は鼻腔に指を宛てて黄熱と叫び出す、そうなるも銀貨の一つも呉れて早く早くと急がせずには居られない。

サンポート
和蘭風

上陸してサンポートの市街を見るに和蘭の都市を其儘建物は概して高く、そして紅白紫綠黄藍と云ふ風に己が好みにとりどりの彩色を施してある市民の數は三万に充たぬが頗る殷盛を極め、漠大な商取引を行ふ商港で遠洋航路のみにて二十あまりの汽船會社が此港に寄港するが此外に紐育から遙々渡航し來る珈琲積入船が中々多い、市中到る所珈琲を見ざるなく、倉庫を見ても珈琲充積、市中の

空氣も珈琲の薫り高く諸々の大廣間には半裸體の黒奴がシヨールで珈琲を袋に話めて居るかと思れば他の室には多勢の男女は鼻歌がけで珈琲豆を擇り分けるやら其豆を入れる袋を縫ふやら其は中々賑やかなもの、

珈琲一盃の香味

旅客が此珈琲本場に来た冥加には一碗の珈琲を飲まずには済むまい、市中各所に珈琲店があるズツト入ると雪白の前垂かけた給仕が卵洋盃より小さい茶碗に牛乳も交せない而も舌の爛れん許りの熱い珈琲を汲んで来る其色は墨よりも黒く灰汁よりも強いが其味は美に香は極めて芳ばしく價は極めて廉即ち僅に一錢!

配當年五割の鐵道

「サントース」から伯國第一の鐵道で山を超ゆれば即ち「サオポウロ」市

なるが如何に驚くべき多量の珈琲を此鐵道が運搬するかは此鐵道會社の配當が年五割に上ることが稀らしくないので一班を察するに足るではあるまいか。

「サントース」から山麓まで瀛車が疾行して山にかかると鋼條で曳き上げる傾斜面は三段で之を超ゆると亦機關車を連結して三十餘哩を走ると「サオポウロ」に着するのである。



第二章 世界最大の珈琲園

珈琲園

サオパウロより鐵道にて内地に入る三百哩の所に世界最大の珈琲園として名高きヂュモント珈琲園がある園内の珈琲樹實に五百萬株是より生ずる珈琲の數量は裕に米國の總ての老若男女が一週間の需要を充たして餘りあるのである持主は數百萬弗の資本より成る英國シンデゲートで最新式の方法によりて經營せられて居る、ヂュモントの珈琲園に行く途上の觀は珈琲園に次ぐに珈琲園を以てする有様で満目珈琲樹ならぬはなく收穫時には珈琲の實を摘む人あるはコンクリートの廣場に之を乾す人を見るのみである、

眞の紅塵
万丈

最良の珈琲地は光澤ある赤色を帯び恰も赤煉瓦の碎粉の如くに見ゆる、されば天氣續きの折には風に誘はれて立昇る土煙は宛ら紅雲の如く樹も藪も之に染られて物として赤からぬ所はない位であるから風吹けばカラーもカフスも直ぐに紅色となり通り越す停車場に遊ぶ小供の顔も彩色した印度人かと疑はるゝばかり。

しかしながら此紅塵萬丈は餘り愉快なものでないと云ふものゝ是が珈琲樹にとりては何よりの滋味であるので赤土の地層三呎乃至四呎を掘つて見ると下は砂礫層となる。

ヂュモント珈琲園は海拔一千呎より三千呎の高さなる丘側にある、紅の地を背景として珈琲樹の緑色の照り添へる中に珈琲の實を摘

む人草とる人さては耕す人の見ゆるなご捨てられぬ跳であるが珈琲畑は手入行き届きて宛ら花園の如く塵一つだに留めて居らぬ。森林を伐り仆して珈琲園を拓くには切株の間の地面に小穴を穿つて之に珈琲苗を植へ強い日光を避ける爲に木の枝を挿し翳して置くのである。

前に述べたコンクリートの珈琲乾燥場に接して労働者の住舎があるのは殆んど珈琲園の型になつて居ると云ふてよろしい。珈琲樹は野生に育つかの様思ふ人はデユモント珈琲園を見るがよい、廣く世界を見渡すも恐らく此珈琲園の如く經營の苦心と人手を要する農園は恐らく一ヶ所もあるまいデユモント園の珈琲畑其廣

さ一萬三千エーカー一千五百八十四萬七千坪即ち約五千三百町歩外に牧場二千五百エーカーを所有し年々珈琲樹を植へ増すのであるが此珈琲園一ヶ所の周圍が其長さ四十哩もあつて園内に貫通せる珈琲運搬の鐵道は其延長同じく四十哩以上である。園内に生活する者五千人二十三ヶ所に分屯して七十軒位づゝの村を造つてゐるされば其中には飲食店もあれば麵麩屋もある木挽小屋も鉋工場もある曾ては麥酒釀造場所さへ設けられて在つたさやら、珈琲果實を洗滌して市場に賣出す作業工場は大仕掛のもので事務所には簿記方が控へて收支の計算に忙しく此所で五百萬株からの

珈琲産額とか摘實に關することや、海港に積出すことなど尋ねると直ぐ知らせて呉れる事になつて居る。

二四



第三章 珈琲園の労働

法 珈琲園の労働管理

收獲時の繁忙

園内に置ける労働者の管理組織は整頓したもので先づ幾多の地區に分け、各區に監督を置き其下に幾家族が屬して監督者の指揮の下に働く、一家族の受持を三千株乃至四千株と定め各受持の樹の植付やら手入やらに従事することになつてゐるが一區の珈琲樹數の多いのは百萬株に達するものもある、
收獲期に入ると使用人總出の勢で珈琲を摘み之を車に積み入れる事に取掛る一人の採摘量は約五十斤の珈琲を製するに足る位を程度としてあるが其頃になると園内の東西に珈琲を満載した貨車が

珈琲仕上
数までの手

摘實

運轉せられ數週間を出でずして七萬袋の珈琲は皮を剥かれ乾かさ
 れ遂に船積せらるゝと云ふ事である。
 吾々の飲む珈琲も中々の手數を経て來たものと云はねばならぬ第
 一精選した珈琲の實を採つて恰も我々が豆を植付る時の様に地床
 に播いて發芽せしめ一年半も経過すると丈一尺位の珈琲苗となる
 から之を他に移して深く植へ付けることさへ怠らねば成育は速か
 なものである。
 三四年目には實を結ぶ珈琲實の色も大きさも櫻桃に似て梅の如く枝
 に密接して熟するのであるが其後二十五年乃至三十年の間實を結
 んで更に衰へぬ稀には四五十年間盛に結實する樹もあるが一株か

らの收獲は年四斤位九月は珈琲の花が開き四月五月に實のる摘む
 人は背にバケツを負ふて之に摘んだ實を入れる、賃銀は採摘量の多
 少に準じて拂ふことになつて居る是れだけでも随分手數のかゝる
 ものと想はるゝであらうが、まだまだ市場に出すまでには色々の手
 を經ねばならぬのである元來珈琲の實は樹から採つた時は丁度熟
 した櫻の實の如く赤黒い色で其皮を剥くと我々の口に上る珈琲豆
 があるので即ち核に當る、此核は薄い軟肉に包まれた二個の半圓形
 のものが抱き合ふて形を爲して居るのが普通で中には所謂モカの
 珈琲と稱する種類の圓い一粒の珈琲もある
 兎に角豆核を包む軟肉を去る爲、珈琲を大漏斗に投ずると圓管を通

過する中に豆を傷けずに皮を離れて次の直徑二呎位の銅製圓柱の内部に送らるゝと丁度豆の大きさの無數の穴があつて之を潜ぐると下は流れになつてゐて豆は洗はれながら貯水所に落ちる貯水所には水中に螺旋暗車が回轉して水を攪亂しつゝ豆に着てある膠粘質を落すと珈琲豆は紙の如く白くなる。

『しかし珈琲豆は青いではないか』と云ふ人もあらう成程青いが其は充分乾かした上更に上皮を剥くからである。

何處の珈琲園にも幾段にもコンクリートで固めた乾燥場を設けて置く一つの乾燥場だけでも千二百坪以上のものが多い之れにカヒー豆を置いて日光に終日曝らし尙ほ豆の各部が能く乾く様木造の熊

手を持た徒跣の人が絶へず攪き交る乾燥期間は中々長いもので二ヶ月もかゝることがあるが其間は夜露を防ぐ爲晩景からは物置に納めて置く程で夕立など來はせぬかと絶へず注意せねばならぬ。

乾した豆から更に白い皮をとり其下皮の銀色皮を去るには五萬圓など云ふ高價の機械にかけるので茲に初めて市場に見る落考茶色の豆となるのであるが其順序は先づ通風器にて塵芥を拂ひ次に鐵の太鼓形の回轉車に送る車内には凸凹の横線があつて回轉中に皮殻は自から取れて了ふのである。

次に青い豆を撰り分けねばならぬ圓い小粒の分は上等品でアラビヤ直輸の「モカ珈琲」などと銘打つて賣り出すは即ち是れである、二等

モツカ珈琲

品は大抵瓜哇品と銘を付けるが其實東洋諸國から來たものでなく
元を糺せば南米伯國の同じ珈琲樹から産したものであるなどは聊
か滑稽の様に想はるる。

珈琲産地に於て最も面白く感ずるは品級分類の工場である、廣い場
内には婆さんも小娘も入り交せの伊太利婦人が多勢居つて前には
長いテーブルを据へ卓上には例の青い珈琲豆入の箱がある之に向
つて多勢働いてゐるので箱から一握りの豆を出しては綿密に檢視
しつゝ、悪い豆は右手の箱に入れ良い豆は机の小穴に入れると下に
受袋が吊してある伊太利娘のバツチリとした眼元に蓋薇色の頬せ
らるが華やかなハンカチーフを頸に巻き付けてゐるなどは一寸美

しく見ゆるもので、

一盃になつた袋をば男が來て颯々と縫工場に運び行く。

此精撰場の後は前記の通風室なれば機關運轉の響高くカッヒーの薫
り鼻を衝くは機關の燃料は石炭ならで例の白い糟殻である爲であ
る。

十五年前を回顧すれば伯國珈琲園の光景は今日著しき轉變を呈し
たものと云はねばならぬ以前は珈琲園の勞働者は悉く奴隸より成
り監督者が朝四時の鐘と共に一隊の奴隸を率ゐて畑に出掛け夕の
七時まで酷使したのであつたが奴隸解放令と共に黒奴は珈琲園を
去り交替に伊太利勞働者が渡來し始めたデユモントの珈琲園も今

は殆んど伊太利人で耕やしてゐるが實驗上黒奴より働作は數等優つてゐるとやら。



第四章 珈琲貿易

珈琲貿易
リヨ府

「ヂュモント」珈琲園から汽車にて北に走る一夜にて伯國首府「リヨデ」に到着する「リヨ府」は是れ又珈琲貿易の中心にして産業上並に政治上より見て確に首府たるの價値がある「リヨ府」は「サント」ス「港」の如き巨額の珈琲を輸出せぬが伯國珈琲貿易の資本は多く「リヨ府」から供給するのである。

伯國の生命
は珈琲なり

實に珈琲こそは伯國の生命の綱である第一の重要輸出品も是れ政府の財源も亦是れを主なるものと頼んでゐる今日より十年前ですら壹億八千万弗の伯國輸出總額の中壹億四千万弗は珈琲輸出であ

るから珈琲の世界相場は假令一斤一錢の高低があつても其の伯國に及ぼす影響は實に多大なものである。

米人消費
量八億斤

米人は外國人に比して珈琲の嗜好深く従て多量の珈琲を飲み一年八億斤内外を消費するから全歐洲よりも一千万斤消費量が多い即ち米國人一人に付き十斤の割合で毎年一億七千餘万の金は伯國に行つて珈琲耕作者や海運業者やカヒー商人に分配せらるゝのであるが伯國は珈琲に一割一分の輸出税を課するから伯國政府も夥しき分配を受ける譯である。

珈琲は伯國二十一州何れにも産するが「サンパウロ」の本場に次ては首府の附近なる「リヨデヂャネロ」州も亦大産地たるを失はない。

「サントース」から輸出する珈琲は温暖な南部諸州の産で之を北の熱帶地に比すれば其香氣は和らかで且ツ一層芳ばしいこのことである。

「サントース」港にも「リヨ」府にも米國の大珈琲商は代理店を設けて珈琲の買入れや船積を司らせ紐育バルテモア、シカゴに輸送するのである。

「リヨ」府に行つて見ると諸所に珈琲を染色し光澤をつける工場があつて南アフリカ向の珈琲などは態と黒く染める元來ブラジル珈琲は青色の豆であるのを水車にかけて種々の粉を混じて亞非利加産の様に黒くしたり亦は黄色に染めるのであるが其染色職工が手袋を用

珈琲に對
する各國
の嗜好

珈琲商館の支配人

ある所から察するに其粉は餘り衛生上よろしくないものではあるまいか。

獨逸向の珈琲になると糠の儘で「ハンブルヒ」に積出す、亦或る地方には輝くばかりに磨いて輸出するが米國には産地から來る其儘で送る様である。

「リヨ」府の米國商館は珈琲の大取引を行ふのであるから其支配人は機敏なる商人で技倆を要するは勿論である、彼は多少珈琲を鑑定する眼識を有し市場の高低に依りて掛引を試みねばならぬ、商館には珈琲の専門技師があつて青色紙に珈琲豆の見本を擴げ検査の末に値段格を定めるのである。

金儲の最も容易なる國

苟も强健なる男子たる以上伯國に於て金を得るの容易なることは「リヨ」港の仲仕人足を見ても解る、彼等は市街を貫通せる輕便鐵道によりて珈琲貨車の埠頭に着するを待ち受け一袋三錢の割にて船に積み入るのであるが七十圓乃至八十圓の月收があるこのことである。

伯國の八月月收

珈琲積出港に於ける一種の奇觀は警察の嚴密なることである、波止場附近には制服を着た警察官の夥しく出張して監督を怠らぬは勿論税關官吏の見張りある外密偵が鶴の目鷹の目珈琲を盗むものなきやを注意する所が盜賊の方も中々巧妙の手段を用ゐる例へば諸諸の波止場の板敷の上に珈琲袋は山の如く積であるとポートに乗

り其積荷のある棧橋の下に潜ぎ付け錐にて板敷の間隙から珈琲の袋を傷け管を以てボート内に導き瞬間に數袋の珈琲を空にして逃げ去るので探偵は波止場の上のみならず其下の水上をも嚴に警戒せねばならぬ。

其のみならず仲仕が頭に例の珈琲袋を戴きて船積する際袖に忍はせた錐にて袋にソット穴を穿ち洩れ出づる珈琲をば袖口に受けて腰の邊に蓄へ水を飲むなどと物蔭に行つて盗んだ珈琲を用意の器に隠蔽するのもある斯くの如き有様なれば珈琲商は高い給料で密偵を雇ふ必要があるのである。

第五章 「リヨデシヤネロ」府

南米都府の大關

南米大陸の最大都府は「ブエノザイリス」なるが之に次ぐは「リヨデシヤネロ」で其人口約七十萬前者は西班牙的の都府の大關後者は葡萄牙的大都府の横綱と云はふか今の葡萄牙全國の都邑を合しても「リヨ」府一都の人口より少いのである實に「リヨ」府は世界中將來最も産業上の發達を遂ぐべき大伯國の首府として重きを措かねばならぬ。米國人か歐羅巴大陸の奇觀名勝を遊覽せんものと猫も杓子も大西洋を超へて歐洲に渡る其有様は恰も羊群が先頭の羊に躓ひて驅け出す如く一種の奇觀であるが近い伯國に尙一層美しい牧場や絶景

のあるのを知らぬものと見へる。

概して南米の風景は歐洲に比して遙に奇勝に富である、恐らくは地球に孰れの大陸に比しても劣るまいと思ふ。

例へば「リヨ」府に就て言はんか都會として光景宛なから一幅の水彩畫に對する感がある、美しき入江の屏風の如き山嶽に包まれて翠綠滴る計りの熱帶植物が麓より山頭まで隙間なく蔽ふて居るさへ、はや目の覺る心地せらるるに山の形のとりどりに面目き砂糖の塊の如きもあり、駱駝の脊に似たるもあり、砲壘の如くなるもあれば城壁の様なるもある、伊太利は「ネーブル」の風光明媚の聞へ高き港頭若くは「金角灣上」コンスタンチノールの絶景を觀た人も一度「リヨ」府

を見ては地中海又は「ボスボラス」灣の風景が今更ながら見劣りがせらるるのゝある「リヨ」府の形は西洋梨の如くであつて周圍一百哩水尋六十呎より淺い所はないから何んな巨船が何百艘來ても錨地に窮することはない。

灣内の此處彼處に多くの小島が點綴して一段の趣を添へ其上に建てられたる壯麗華奢の邸宅は宛から水の上に浮べるにも似て展望しばし去り難い風趣がある。

旅行の客の中には「リヨ」府にて黃熱に罹るを恐れ戰々恟々として鼻ぎ藥を鼻に押當て慄ひながら市中を歩むものもあるから彼等には此絶景も目には入るまいが古色蒼然たる建物の並んだ狭い小路を

通り行けば美事な公園があつて珍らしい佳木珍草夥しく植付けられ竹の如きは五十呎も高く伸びて繁つた枝は程よく烈日を遮り地上百五十呎も高く秀てた棕櫚は風に靡きつゝ其枝を振て居る「リヨ」府は棕櫚の本場でどの棕櫚を見ても立派なること驚く許り其幹の丸く真直に而も滑かに生育して恰も彫工の刻んだ圓柱の如き觀がある根より上百呎乃至百五十呎まで一莖の葉も出さずに雲際を摩す許りに秀て高い幹の頂の邊天蓋の如く葉を擴けて中々に風致あるものであるされば邸宅の門前には棕櫚が列を爲して植る所が多し「リヨ」府の市民は大理石の柱を要せぬ何故となれば棕櫚と云ふ良柱を有つてゐるから。

名産の棕櫚

「リヨ」の市中には此名産の棕櫚を四列にも植付けた街路があつて此棕櫚の並木が少くも一哩も續いて居る所もある。

「リヨ」府は山と海岸との間の平地九哩平方位の所と少し山の麓にかけて擴つて市街は高低區々辻々の角度も不規則で海岸通りは雨の度毎に浸水する此邊の裏町になると黄熱病の猖獗を極むる所で小さい家に多勢の家族が群居して不潔云ふべからざる有様なるが衛生の行き届かざる爲め路傍の石も病毒を含むかと疑はるる許りである其れも其等通路の狹隘なる街車が漸く通る位で日光の透ることはない或る人の云ふには「リヨ」府に片脚の人の多いは路の狭い爲め街車に轢かるる者の多い爲である。

片脚の人多し

此陋巷の背後はリヨ府の商取引の行はるる市街にて、全市中最も古き街衢であるから建物は古代式の奇観を呈したのが多い、重なる俱樂部も第一流の料理店も目星しい店舗も多くは此邊にある「リヨ府の銀座街とも云ふべき」アドオーヴイドルも其中にあるので新聞社や立派な商店は皆此町に集てゐる市民の往來織るが如く雜鬧驚く許り政治家や交際も多く此町に結ばれ議員候補者も「オーヴイドル」に來て市民の向背を察し革命も暴動も亦此町で胚胎すると云ふ勢

されば或る米國人は伯國米國公使と共に伯國議會傍聴に連れ立ち「オーヴイドル」を通行した時に米人は時刻に後れんことを恐れ

頻りに急ぎ立てたけれども公使は悠然たるもので。

「大丈夫、まだ閉會時刻に間がありますよ」

「じゃ議會は此處から近いので米國々會の様に開會中は旗でも屋根に見へると云ふ譯ですか」

「イエ議會は是れから一哩も離れてますがね御覽なさい」
「オーヴイドル」の通行人中シルクハットの人が少ないでせう伯國の議員は絹帽を被るんですが閉會すると此町に出掛て來ますのさ、其シルクハットがまだ少ないから開會中なことが解るじやありませんか」
と公使は答へたとやら。

「オーヴイドル」は狭い町であるが何處もなく「ネーブル」の趣もあり、

巴里の風もあり「カイロ」の「モスキ」の様な處もあつて狭い所などは「モスキ」其儘、法律により牛馬並に車輛の通行を禁止してゐる。建物は平家もあり二層三層もあるが壁は例の如く白、青、褐、淡紅、黄などで色々に染め、屋根は不整で獨逸の舊都に間々ある如く兩側の檐端の擦れ合ふ許りの處もある。

伯國人の
二大好物

「リヨ」府の一奇觀は各戸の二階窓より旗棹を突出して置くことで向側の旗棹と交叉して、宛がら林の如く亦天蓋の如く而して隣の旗棹と旗棹の間とは瓦斯の鐵管が向側に渡してある是は祝日に點火する爲で旗とイルミネーションは「ブラジル」人の大好物と見へる而も、伯國人は年中祝日と名けて慶福する風がある「オーヴイドル」など

街路の般

富籤賣

リヨ府の
物賣

も此旗と瓦斯管の天蓋があつて通行人はぞろぞろと其下を通る伊太利人あり葡萄牙人西班牙人あり英佛伯國人あり此處にはシルクハット嚴めしく禮服の紳士あるかと思れば彼處には頭上に荷物を載せた半裸體の黒奴もある辻々には富籤賣が客を呼んで居る、此富籤賣は中々五月蠅もので一寸でも街路に足を留め様ものなら直ぐ近づいて来て富籤を賣付ける料理屋に入れば其跡を付て来て亦鼻の先に富籤を突き付ける總じて「ブラジル」人は餘程賭博好きの國民である、されば富籤の講社は夥しいもので、一般の風習も稍もすれば何事でも賭の種にすると云ふ有様。
物賣も亦奇妙で頭の上に赤いフラネルの縁とりたる搖籃を載せて

リヨ府の
店前裝飾

來る小供は中で泣いてゐるであらうと近づいて見れば中は麵包か何かで町々を賣り歩いては携ふる三脚に折々搖籃を卸しては客を呼ぶのであるが雞なともこんな様にして賣り廻るのである。
「オーヴイドル」の店頭裝飾は立派なもので博物館を見る心地がする。寶玉屋の前に立て見ると燦爛目を射るダイヤモンドや色々の寶玉が陳列してある實に「ブラジル」は世界のダイヤモンド市場たるに耻ぢない、一體伯國人は着道樂で胃腑より衣服に注意すると見へる論より證據洋服店と小間物屋を見るがよい流行は巴里からの輸入で其直段の法外に高さ定價を見てはゾット身慄せずには居られな
い何にせよ一ヤール絹の上等物一万とが二万普通物一ヤール二千

リヨ府
店前裝飾

伯國人は
着道樂

正札に懸
引あり

行糶賣の流

魚河岸

三千四千と云ふ定價であるが此數字は何を意味するか、仙か、あらず弗か、否驚くなかれ、伯國のレース(錢名)である、一千レースは米價十五仙即ち一弗は約七千レースに當るから金貨二百弗は實に百二十五萬レースと號する次第であるから大變な金の様に聽ゆるが是位な金では三週間で暮すことが出來ぬ程物價が高い。
けれども正札定價は餘り當にはならぬ、随分直切り忸して買う風がある、商取引の多くは競賣に依りて行はれ、リヨ府の市中到る所に殆んど糶賣所を見ざるはなく何品にても糶賣にかけ、小は丸薬一袋植木一本より大は大層高樓地面に至るまで入札で買へる有様である。
リヨ府の魚市場は灣頭の正面にあつて海岸には専用の石造埠頭を

備へて居る。此處へ魚船は魚を持ち込むので魚商が集つて之を買取り天秤棒で魚籠を擔ふて戸々を賣り行くこと日本と變る所はないが魚商は多く伊太利人である。

市場は海岸を後にした長い建物で果實野菜肉類など凡らゆる物がある一寸奇妙に感じるのは其陳列法で玉葱杯は七尺近い糸に幾つも吊して置くこと云ふ風玉葱は美事なもの多く拳大のものも少くない玉葱に拘はらず多くの野菜は輸入品にて例へば葡萄は船積にして葡萄より來る一斤六十錢乃至六圓位で賣買せられ美しい林檎は西班牙より紙を以て丁寧に包み是れ亦輸入せらるゝが價は一打一圓二十錢乃至壹圓八十錢にて賣つて居るけれども伯國の如く温

帶熱帶共種々の氣候を有し且つ地味豊饒の邦に於ては如何なる果實も野菜も出来る筈であるのに何故に輸入を仰がねばならぬかは一寸了解に苦しまざるを得ない日本の農業者などは出掛けて見ることがよい牛肉はキログラム若干として賣るが直段は安く一斤十六錢位唯驚くべきは乾肉の方が却て生肉より高く一斤二十錢位な事ではが一般の食料となる多く亞爾然丁ウルガイ邊からの輸入にかゝり厚さ一寸内外の扁平な肉片で小賣には之を薄く切つて賣てゐる少し鹽味があつて香が強い豚の脂肉も中々高價なるが鹽漬にして肉を卷たもので客の注文によりて切賣りする豚の脂は豌豆を料理するに用ゐるので豌豆と乾肉とは伯國人の常食の一ツであるサー

日本のサ
ーデン
珈琲店
獨逸人の
夢酒の伯
國人の珈
琲

デン(鰯)の油漬は佛蘭西から來るが目下佛國に於て鰯の缺乏と共に騰貴したるに引換へ日本の丹後伊勢伯耆等の水産講習所は上等のサーデンを廉價に製する事となりたる爲め其の輸出の計畫あり現に二名の技師が「サンポロー」に行つて居る。如何に世界の本場とは云へりヨ府到る處に珈琲店がある伯國人は珈琲を飲むことの烈しき恰も獨逸人が麥酒を飲むが如く氣のせいかも知れぬが伯國人の顔色は珈琲色を帯びて居る想ふに餘り多量に珈琲を飲む爲であらう。戲談ではない眞實伯國人の顔色は墨の如きもあり鳶色あり又は黄色なるもあるが要するに自然が彼等を生み付けたよりは確に黒く

王侯の珈
琲

なつてゐる珈琲の祟りではあるまいか。三錢を投せんか王侯すら喜んで嚙下すほど極上等の珈琲一盃を飲み得るので其新鮮にして芳香鼻をつくは言ふまでもなくコックテール(火酒の一種)を飲む様に神経を刺激する伯國の諺に「上等の珈琲は悪魔の如く強くインキの如く黒く地獄の如く熱く而も戀の如く甘からざるべからず」と云ふことがある地獄と悪魔は見た事がないが話に聽た所によりて察するに伯國の珈琲は頗る此特性を帯びたものと思ふ暖爐に沸るのを小洋盃に注ぐのであるから其熱さ黒さ驚かざるを得ざるに加へて其濃厚なること―甘さは無論砂糖を加へる爲である。

元來珈琲は酷く神經を刺激するものなるが其珈琲を終日飲んで居る伯國人は各國民中最も神經質たるを見るは怪しむに足らない試みに珈琲店に入て見られよ伯國人は決して疑乎しては居らぬ床の上なる足を踏み鳴らさぬ時は極めて稀で絶へず裁縫のミシンを踏み動かす様な身振をやつてるを見出すであらう斯くも彼等をして神經質ならしめたる他の原因は喫煙らしく思はれる珈琲店には必ず煙草屋が附屬しあるのみか口に紙煙草を咬へざるはなく男も女も子供すらニコチン中毒に罹つて居るのである、

第六章 伯國の日光輕井澤

讀者諸君は曾て「ペットロポリス」なる地名を耳にせられしことありや是れ大統領を始めとし伯國大官の避暑地にして在伯國の外交官が年中常棲の場所で「リヨ」府の背面に位し海拔半哩の高處である其風景は瑞西に似て黃熱病などは寄りつけぬ程の好氣候「リヨ」府から美しい海邊に沿ふて少しく行く山路にかかる其昇りつめた所に二萬許りの人口ある所は是れ即ち「ペットロポリス」途筋は先づ瀛車で山道を昇るのであるが勾配急にして身體の轉らぬ様手荷物踏みてめて居らねばならぬけれども沿道の風景の絶佳なる譬ふるに物

なく緑濃に滴る許りの灌水の繁間より亭々として天を摩する喬木に蘭や蔦葛の美しく纏たる、あるいは断岩高く聳へて深く雲を分けたる或は幽谷深さ五百呎其上の高嶺四千呎の山側を緑の色班らに染めなして處々に砲臺かと思ゆる巨岩大石の突出し大なるは厚さ一千呎高きは二千呎なる断岩もある「アンデス」の山「ヒマラヤ」の峯若しくは「アルプス」の山險孰れも其奇勝を以て世に鳴つて居るが「ブルジュル」沿岸の絶景は決して之に劣るものではない否華やかなる緑の色に飾られたる所更に一般の美観である要するに「リヨ」府と附近の海濱の風光は雄大の二字に盡きる特に雲の變化は實に面白く見ゆるので「ペットロポリス」から「リヨ」府に通ふ途上に於ても或る時は雲

深く「リヨ」府方面を鎖して臚に山の姿見ゆるの外は木も草も雲に包まれて白きこと雪の如く、北氷洋の雪風景も斯くやと思はれ、亦あるときは雲山嶽の間を走せて銀の如き海面を撫でつゝ消ゆる時などは白雲の天地に涼車を走らす譯て甚だ珍らしく覺ゆるに其雲も次第に露れて海はサツファイヤ色となれる中を赤屋根白壁の「リヨ」市に向けて汽艇を飛ばすも亦清新の興味がある、「ペットロポリス」は要するに瑞西と日本の絶景を加味したものに似て熱帯と温帯の風光を兼ねたものである其純潔なる空氣は稍々濕りを帯びて萬木の生育一として佳ならざるはなく山と云ふ山緑に包まれぬはない。

ペットロポリスは、富める町で建物は畫を見る様就中米國公使館などは石造の白亜塗にて玄關は鼠色のドリーツク風の桂を以て飾り、伯國別荘の摸範といふもよい平家でこそあれ大廣間の數も多く、空氣の流通もよく天井高いのみか室内は電燈の裝置ありて其發電所は近所の瀑である公使館は前王ドムペドロの避暑宮と相對した所にあるが庭園は美事なもので繞らすに石垣を以てし門前には合衆國の紋章を刻み庭の後は絶壁五百尺の綠丘となつてゐる園内の椿花紅白艶を競ひたる躑躅の咲き匂ひたる石楠の綠なるなど孰れも邸内の光彩を添ゆる色ならぬはなき中に公使の食事を終らんとする頃厨夫が前庭に出て眼のあたり摘み來る密柑とバナナは頗る新鮮

女學校

且つ美味なるものである。

外に米國女學校もありメンデスト派の女流が主幹する所であつて教師は米人生徒は重に伯國良家の子女であるが學校の評判は中々よろしい學校の位置は「ペットロポリス」の山の頂にあるが建物は元伯國富豪の住居であつた丈けに外觀學校と稱するよりは寧ろ宮殿の様に思はる中には灌注水沿や冷水浴泳場がある器具標本器械に至るまで一として新式のものならぬはない。

如上の完備せる女學校があつても伯國には甚だしき効果を奏せぬ何故となれば女子教育の如きは「ブラジル」人の重きを措かぬ所で智利や亞爾然丁や「ウルゲー」に比すれば遙に幼稚なるを免れぬ從て伯

伯國の淑
女

國にては女子が電話交換手たることや簿記方たることは夢にも想ふものはないのである。勿論「リヨ」府や「サンパウロ」市には電話交換手に女もあるが此二大都府を除ては女子の職業は僅は女教師と保姆あるのみである。所謂米國の「新式女流」などは未だ赤道以南には顯れぬので伯國婦人の終局の目的は遂に婚姻に止まるといふ有様である。

伯國の家
庭

さりながら伯國人の婚姻は世間で想像するよりは大に戀愛の情味に富むものらしい。伯國人は能く純良なる夫たり又父たると共に女子は善良なる母として恥からぬが多い。特に親子間の睦じく愛情の濃やかなる外人も羨む許り。幼兒はよく其長に事へて手に接吻し男

男女間の
敬禮

子は婦人に敬意を表する標徴として女の手に接吻するのは伯國の禮である。

米國女流
の對照

米國婦人と伯國婦人を對照すれば著しき相違がある。彼等は米國女子の如く正午前の化粧着服などの爲め長時間を費す様なことは絶てなく稍々田舎者めいては居るが兎に角事を處するに氣輕なものである。されば午頃まではマザーバード式の寢間着姿なるを常として外出するにも短衣黒裳の儘で颯々と出掛けるし朝起きて珈琲一盃にカステラ巻位で朝飯を済まし午までは化粧もせず居て午睡が了つて後盛裝する向が多い。

窓美人

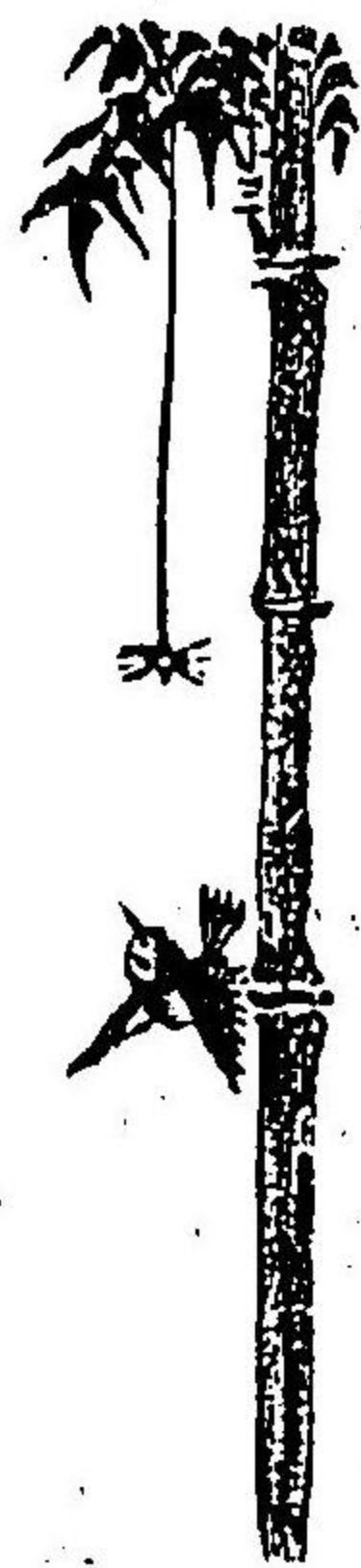
伯國の市中を行けば必ず美人が玻璃窓から街頭を眺むるを見るで

あらう、彼等は窓の臺櫃に座布団を置いて、肘を休めつゝ、外を見るので、
 或者は運動椅子や、腰掛を窓際に置いて腰かけながら外を見て居るも
 ある、毎戸二個以上の窓が街路に面した所にあつて、一人か二人の女
 が吃度窓に倚りて眺め暮しゐるが、結髪の儘に花を翳したるが多く
 年は花の如き娘盛りより老たるは六十位の老嫗も間々あるもの
 概して十代の少女が多い、此等の嬋娟たる少女が馬車で通る知合の
 男を見かけると、恰も「入らつしやい」と言はん許りに、食指を曲げて見
 せる男にばかりでもない、知つてる女に向つても同様である、初めて
 之を見る外国人は變に想うのであるが、實は指を曲げて見せるは「サ
 ヨナラ」とか「御機嫌如何」とか云ふ意味の禮儀であるげな、

菓子好き

婦人の買物

伯國婦人は非常な菓子好きで、齒が大抵弱い、其好物は軽いカステー
 ラに、夥しく糖を注いだものと、椀椀の砂糖煮と甘いチエースである。
 買物に出掛けることは、伯國婦人は極めて稀であるから、商店にも取
 引臺がない、買物は家で求める風習で、何品でも棒を鳴らして來る、行
 商から買入れる、けれども此風は次第に癢りかけた。



第七章 「バヒヤ」と金剛石

「リヨ」府より海路二日の北の方に伯國の舊都「バヒヤ」市がある大きに於ても商業に於ても「リヨ」府には劣るが而も伯國の一大都會たるを失はない。「バヒヤ」市も海港で灣の廣さ略ぼ「リヨ」デジャネロに均しく其馬蹄形を爲したる灣の入口の幅十哩中央の幅二十哩長さ約二十七哩であつて灣の東側の高丘は即ち「バヒヤ」市になつてゐる。船灣内に入れば旅客の眼に映ずるは緑の林をなす棕櫚の繁れる中より高く聳ゆる白聖高樓である。市は山の手と海岸通に分れ海岸の市街は商業地で貿易商の占る所なるが一種の惡臭を放つ陋巷で「ネーブル」

大女の

の貧民窟も三謝を避ける臭氣がある其れも山の手に昇ると稍臭氣が薄らぐものの兎に角「バヒヤ」は不健康土地と云はざるを得ない此都の特色は黒人種の多いことだ。殆んど全市の人民悉く黒奴か若しくは其血統を引いたもので假令黒からざるまでも鼻孔の大きな平扁鼻ならぬはない總じて「バヒヤ」の女は肥大を以て名高きもので體量三十六貫位なるは敢て珍らしくない恐らく世界中の大女は「バヒヤ」の婦人であるふ、
 彼等の衣服は極めて薄く全身を蔽ふにも足らない即ち白の袖無襦袢であるから惡魔然たる眞黒な腕も胸も露はなので襦袢の頸圍は美しい摸様に編んだレースになつてゐるから例の黒い肌は編目か

大女の服

ら能く見へるのである頭には白か灰色の布を巻腰の邊にはシヨウ
 ルを纏うてゐるが多くは徒跣で歩く尤も中には踵のないスリッパ
 を穿くものもあるが其靴の短い爲足の半部分入るか入らぬか位
 なものであるからとても白人が穿けるものでない『足の凹で地の穴
 掘るよ』と云ふ黒奴の戀歌を想ひ出さるゝ次第であるけれど『バヒヤ』
 黒女は中々に金持である或る者は純金の腕環の六ツも箝め稀には
 ダイヤの指環を輝かすものもあるが大抵は其肥太た頸に金の鎖をか
 けてゐる。

黒人の集

「バヒヤ」は黒人の多い所である尤も「バヒヤ」は多年の間奴隷賣買の中
 央市場であつたから誘拐者は亞非利加から黒奴を捕へ來りて「バヒ

ヤ」に揚陸し夫から伯國各地に配るのみか北米「ニューオルレアンス」ま
 でも送り出したものである合衆國が奴隷賣買を禁じて以來ですら
 盛に密輸入行はれた程であるから伯國が黒奴輸入を嚴禁しても中
 く此悪商賣は止まなんだので十五六年前までは伯國には尙ほ奴隷
 賣買は行はれて居ただから「バヒヤ」には白人種よりは黒人が多いの
 で従て黒白人種の雜婚が盛に行はれ遂には今日の如く「バヒヤ」に純
 粹の白人は少なくなつた譯である。

「バヒヤ」の黒人種は絶對に白人と同等の權を有てゐるさればホテル
 又は汽船の食堂に於て黒人と同席を拒むなどと云ふことは伯國に
 於ては決して出来ない汽船の旅客も多くは黒人なるが其服装など

中々立派なもので西洋人も一步を譲る程であつて敏才の人も少くない、しかも多くは財産家である、リヨデジャネロ日刊新聞の記者兼社長なども炭團の様な顔色の人であるがアマゾナス州の大僧正も黒人で美しい法衣を着け頭に牧師帽を戴いて佛蘭西語を流暢に話す極めて伶俐の人物らしい。

「バヒヤ」の家屋を繞らす墙壁は虹の如く彩色されてゐる家の壁も白きあり赤きあり青きもある中には全部緑なる建物すらあるのて棕櫚の色に似たのや紅なる花の如き若しくは金の如く黄なるものもある亦建物によつては歐洲仕入の瀬戸物にて外部を張つて窓は鐵の透細工を箝め入口には矢張鐵物の裝飾物を施してあるが其意匠は此

地固有のもので多くは黒人の意匠に係るものらしい亦建物も概して古代式であるのも必竟「バヒヤ」は南米最古の都府の爲であらう紐育や「ポストン」の出来た頃には「バヒヤ」は既に古都の部類に入つた頃であつたのでコロンブスが初めて大西洋を横ぎつた年から八年を経て葡萄牙人は早くも「バヒヤ」に渡航したのである其後和蘭人も「バヒヤ」に渡來して前住の葡人を驅逐せんと試み英國も占領せんと企てたが孰れも失敗に終り今尙ほ「バヒヤ」は伯國の葡萄牙町である。「バヒヤ」の教育は進歩したもので伯國に於ける第一流の學校が多い特に其醫學校と病院は「バヒヤ」人の誇りとする所である「バヒヤ」附近は未だ充分に殖民せられてないが將來は人口も増殖することであ

釦の金貨
一万個

らう。
米國金貨が「バヒヤ」に多い其れは市民中のハイカラ黨が上衣の釦に用ゐるので其需要の盛なる中々高い相場になつて居る米國領事の言に據れば斯く用ゐらるゝ金貨の數は「バヒヤ」市のみにても一万個を下るまいとの事である米國金貨と云へば市民は雀躍して喜ぶ黒人婦女は鎖や腕輪にするの外赤子の腰の邊りに吊すことが流行する是れは金貨を下げた嬰兒は幸運な人になるこの迷信から出たことやらで少しく貧家の子は金貨の代りに銀貨を腰に下げ赤貧の子は唯紐ばかりでも腰に結んでゐる。
一體「バヒヤ」は硬貨の不足な所で紙幣に比して打歩が付いてゐる白

幼兒金貨

通貨の欠

銅貨すら充分でないので市街鐵道や汽車の切符を補助貨に代用してゐる始末であるが金貨などは銀行かさなくば兩替屋でなければ見る事は稀である流通の銀行紙幣は十レリスの額面なるが三十錢は千レリスの割なるも時價の變動激しくして投機材料となつてゐる。

取金剛石採

「バヒヤ」は伯國のダイヤモンド産地に行く入口である金剛石は「バヒヤ」からスット奥の「パテグアシー」河畔に沿ふた邊で發見せらるゝので河の底の小石の中に混じてゐるのだ其を土人は水中に潜り大七で砂利を酌んで來ては陸に持つて來るのである水の浅い所は大抵掘り盡して今は深い所ばかり残つたので水の濁れた季節でなければ採

取がむづかしくなつたけれども季節になると河流の餘り早くない所に一本の柱を立てポートにて漕ぎ付け一人は口の開いた袋を以て水中に潜りこむ金剛石の上には概して泥があるから潜水夫は先づ此泥土を掘り除けて小石を袋に詰めるさて袋が一杯になるとポートに合圖の綱を曳き自分は柱を杖に水上に浮び上るかくして二度袋の砂利をポートに詰めると岸に歸り流に洗ひ去られぬ場所

伯國產の
ダイヤモンド

で乾かし毎日河床の砂利を運んでは干す其中に雨が降つて泥を洗ひ去りダイヤモンドは残るのである。

「バヒヤ」は伯國ダイヤモンドの主なる市場であるから此商賣の有様を知るには最も便利の場所である伯國は以前世界に於けるダイヤ

一粒百萬
圓の金剛
石

の主産地であつた初めて此國にて發見せしは一七二七年「ミナスゲレス」で土人は金剛石を骨牌の數取石に使つて居つた後に「バヒヤ」に産地發見せられ一時は最上のダイヤモンドは「バヒヤ」から産するものとしたものである。

其後數年間伯國より幾度も一個百萬圓など云ふ珍らしい金剛石を産出した勿論伯國ダイヤモンドは多く小粒で二十カラットを超ゆるのは稀であつたが中には南星と銘の付いた二百五十四カラットの重量ある珍寶を千八百五十四年に發見したことをすらもある。

けれども今日となつては、とても亞非利加の金剛石産地に及ぶべくもあらぬが今日の如き機械の進歩する世の中となつては今後如何

なる珍石を發見するに至るべきか何人も豫言は出來まいと想ふ今尙ほダイヤの採取は年々行はれて居るもの、昨今はダイヤよりカーボンの方が寧ろ利益が多いカーボンとは黒か炭色の純粹ならざるダイヤモンドであるカーボンの硬度は金剛石に劣らぬが唯密度に於て相違があるので、つまり氣孔が多いのである其用途は穿孔器械やら硬い物を磨くに用ゐるので大さは砂粒ほどの細きより何百カラットと云ふ大物もある、近年カーボン一カラットに付き二十弗の相場であるが數年前に發見したのは重量三千カラット價二万五千弗と云ふのであつた最近に發見した大きなカーボンは重さ九百七十五カラットで巴里に一千フランに賣れたのである、こんな大き

なカーボンは結局碎いて使うのであるから、つまり小粒のものは割よく賣れるとの事である。
ダイヤモンドやカーボンの採取業は丁度賭博の様なものらしい、時としては勝しい砂利を揚て漸く一ツのダイヤモンドを得るか得ぬかの事や、季節中に二ツ三ツよりダイヤを探し當ぬこともあるとやら。
砂利洗ひは黒人で木製の盆に彼の砂利を入れ洗ひながら注意するのである、潜水夫は赤裸で働くが、近來探掘主の米人は潜水器を用ゐて初めて、亦場所によつては金剛石は河岸に近き小石の中に混じて居て水力を用ゐて洗ひ出す所もある、潜水業者が一つ考へる價值があ

るであらう。

誰でも伯國は礦業地としてよりは寧ろ珈琲や護謨の産地と考へてゐるけれども「バヒヤ」などは金礦もあれば未採掘のマンガン坑もある。「ミナスゲレース」には五十年來採掘中なる金山があつて「マツトグロツソ」にも採金業が盛んなるが「アマゾン」河の畔にも砂金採取が行はれてゐるのである。

望
礦業の多

伯國獨立前「ミナスゲレース」の「オーロドモルロドフオゴ」金礦から約二万斤の金を産した程であるから今でも多くの金が残つてゐるらしく想はれる。何故かと云ふに伯國で七十五呎も採掘して行くこと排水が困難と云ふので採掘を中止するのであるがポンプで汲出さ

ば採掘せらるるものを此方法を知らぬ爲空しく天與の寶庫を棄て置く有様であるからである。

五十年來採掘してゐると云ふたのは「モルロベルホ」の礦山であつて今は年々五千オンスを産し伯國の重なる礦山で最新式の採掘方法を用ゐてゐる其採掘鑽石の量日に約二百噸、五個の壓碎器械を据付けて忽ち金の延棒を造る礦山所在地は僻遠の地にあつて礦山から鐵道までは荷車にて運ぶのであるが別段兵士の警衛などがない之を見ても何如に伯國に於て財産の安固が保たれて居るかを察することが出来る。又從來米國の如く強盜が瀛車を襲ふたことなどは絶てないのである。因に云ふが金の延棒は一個價三千弗重量八オンス

で二百分の一の銀を混ぜたものである。
 近來アマゾン河の北方の金鑛に世の注意を惹くこととなつた場所
 は佛領ギアナに近き伯國の國境で一年の採掘量は二百万弗に上つ
 たで今は多くの佛人は此邊に盛んに採金に従事してゐるけれども
 廣漠たる原野で政治も行き届かぬ所から已むなく鐵砲やピストル
 で自衛する外は他に手段はない。



第八章 伯國の近海航路

ロイド
伯國沿岸
航路

ロイド會社は伯國沿岸航路、獨占の姿で壯麗なる上等室や、金色燦爛
 たる食堂を備へた三千噸内外の船を大河洪流に航行せしめて居る
 が「リヨ」府と「アマゾン」河口の「バラ」市の間に二千九百哩の航路にも其
 第一流の航船を充用して居る。「リヨ」府から「バラ」市に向ふ旅客は上等
 船客は別として下等客は多く「アマゾン」の護謨林に働きに行く勞働
 者であるが多きは妻子を携へて行く風があつて上甲板は賑やかな
 もの、赤裸で甲板を匍ふ子供や相撲する頑童、ハンモックに眠る男女
 さながら百鬼夜行の装束を見せてゐるが、極貧のものはハンモック

護謨採
出稼人
收

すら持たぬのでデツキに寢食してゐるのもある、食事は亞鉛製の椀に米と肉との雜煮を盛りて家族一同甲板に蹲まりつゝ喰ふ有様は人間よりは寧ろ動物に近き憫れむべき状態と云はねばならぬ大抵は指にて手摺稀には食七やナイフ、フォークを持つてゐるものもあるけれど、上等室の食堂如何に華麗なるにせよ、其客たる伯國紳士淑女等が食卓に於ける不作法を見せつけられては聊か嘔吐を催さざるを得ない黑人種の貴婦人などが其喰べかけたフォークを潰物の瓶に差し入れて當なごを探し残りをつれの客に廻はすなどは珍らしくないのである。

船の食事は四度第一回は朝六時で茶加珈琲に堅パン位次は九時半

の朝飯后四時半の晝食夜八時の茶と云ふことになつてゐる、朝飯と云ふても寧ろ其献立から見るとデンナーと稱すべきものでスープに始まり次に魚か油煎肉野菜などの順である食卓へは灸りたるマシデオカの粉を盛つた椀が付き物になつて居る外國人にはトント甘くなく木屑の様な味があるばかりであるが伯國人は好んで此粉を肉に振りかけるのである其次には乾肉と黑豆をスチウにしたのや牛舌を色々に調理したのが出る食後の菓子は重にゼリーかエダムチエースに密柑芭蕉實位のものである。

「バヒヤ」から「ペナン」に行く間には汽船は所々に寄港する「ペナン」は伯國の一州であつて首府を「レシーフエ」と稱す「レシーフエ」と

レシーフ
エ港頭の
壯觀

は英語のリーフ(暗礁)の義である。此港には沖合に向つて長蛇の如く突き出でたる暗礁がある所から出た名稱であらうか。此暗礁は自然の防波堤を爲て「レシーフエ」をして屈指の良灣たらしむるのである。此自然石の防波堤の上は石垣となつてゐて干潮時二十尺の高さなれば満潮の時と雖も充分外洋より押寄來る激浪を防ぐに足るのであるが大波小波寄せては砕け砕けては散りて雪の如き水煙となりて空に立昇り日に照されて虹を現すなど壯觀と言はねばならぬ。「レシーフエ」は伯國商港の一にして二十万の人口を有し南米の「ヴェニス」の稱がある貿易盛にして一年千艘ほどの船舶は入港する位で日本から「ネーブル」若くは「ブレイメラルハーフェン」にて乗り換へ伯國

南米の
エニス

ブラジルの
棉花

に渡航するにも伯國沿岸に於ける最初の寄港地は「レシーフエ」なるが此港は棉花と砂糖の産地である要するに「ペナンブエ」は棉産地であつて耕作は小農組織なる爲め農夫は毎年二三俵の綿を作るに過ぎざるも是が集つて大輸出品となるのである。現在の耕作状態は未だ開拓時代であつて先づ廣野に野火を點けて雜木を焼拂ひ次で穴を掘り棉實を播くので其からは雜草を除くの外何等の手續を要せぬ。則ち耕作とは云へぬ程幼稚なるものなるが若し充分の耕作法さへ施せば確に棉花栽培も有利の事業となるらしく思はれる。伯國に於ける棉花栽培事業の發達は恟に驚くべきものにて此分にして推し行かば恰も現時の米國南部の如く棉花王としての伯國を

未來の
花王
の棉

見るの日近かるべきを信ぜざるを得ない唯今の所にては「リヨ」府から北「ペナン」州に至る海岸一帯の地悉く棉花畑ならぬはなく其附近の海港より棉花を積出す數量實に夥しいものである、一方に於て政府は綿布類に輸入税を課して保護を與へる爲め紡績會社は少からぬ利益を得つゝある過去十年間に百五十五の紡績會社が新設せられ今尙ほ多大の利益配當を爲すのであるが或る紡績などは創立の時六割の配當を行ひ翌年から年々の利益を以て事業擴張を遂げ傍ら年一割の配當を五年間繼續してゐる。

「ペナン」州の南「アラゴアス」州に一年十二万五千反の綿布を生産する紡績會社がある其職工は四百八十人との事なるが創立の初年四

紡績業の利益

織布會社の配當率

割八分翌年五割三年目に四割の配當をした。

「バヒヤ」州には紡績會社十五「リヨ」府には一、それから南にかけて「サン」パウロ」邊まで數多の紡績會社があるが南にある會社は船で北から棉花を輸入するのである「ミナケレース」州には作業中の紡績工場四十六職工二十萬人消費棉花量數千噸に上るが資本は三十萬圓内外のものが多く尤も「バヒヤ」の大紡績會社は六ヶ所の分工場を有し資本も二百萬圓織器四四〇錘數二万一千で織布高五千八百ヤールを産するものもある又「リヨ」府の大工場では輸入綿糸を仰いで居るが伊太利人の經營で成績がよろしいこの事である。

織布會社は得意先の注文に従ひて綿布を織り其綿布には注文主の

慣用綿布の種類

砂糖國の伯國

商號と商標を織込む慣習がある綿布の直段も左して高くはない二十六時幅の綿布は「ブラジル」人の好む所であるが上等品の中には二十四時三十二時三十六時のもある。

伯國は一面に於て砂糖國と云はねばならぬ「ペナブコ」より産する砂糖のみにて一年甘蔗一億万斤であつて數多の大製糖所設けられ中には砂糖よりラム酒を再製する工場もある、ラム酒は伯國人の好愛する飲料らしい。

「レシーフェ」市は面白い所である建物は例の華かな色に塗つて商業の中心に二階若しくは三層樓が多い瀬戸瓦を塗りこめ或は急勾配の屋根ある所和蘭の市街を聯想せざるを得ない一體「ペナブコ」は

御自慢の都會

肉の廉い所

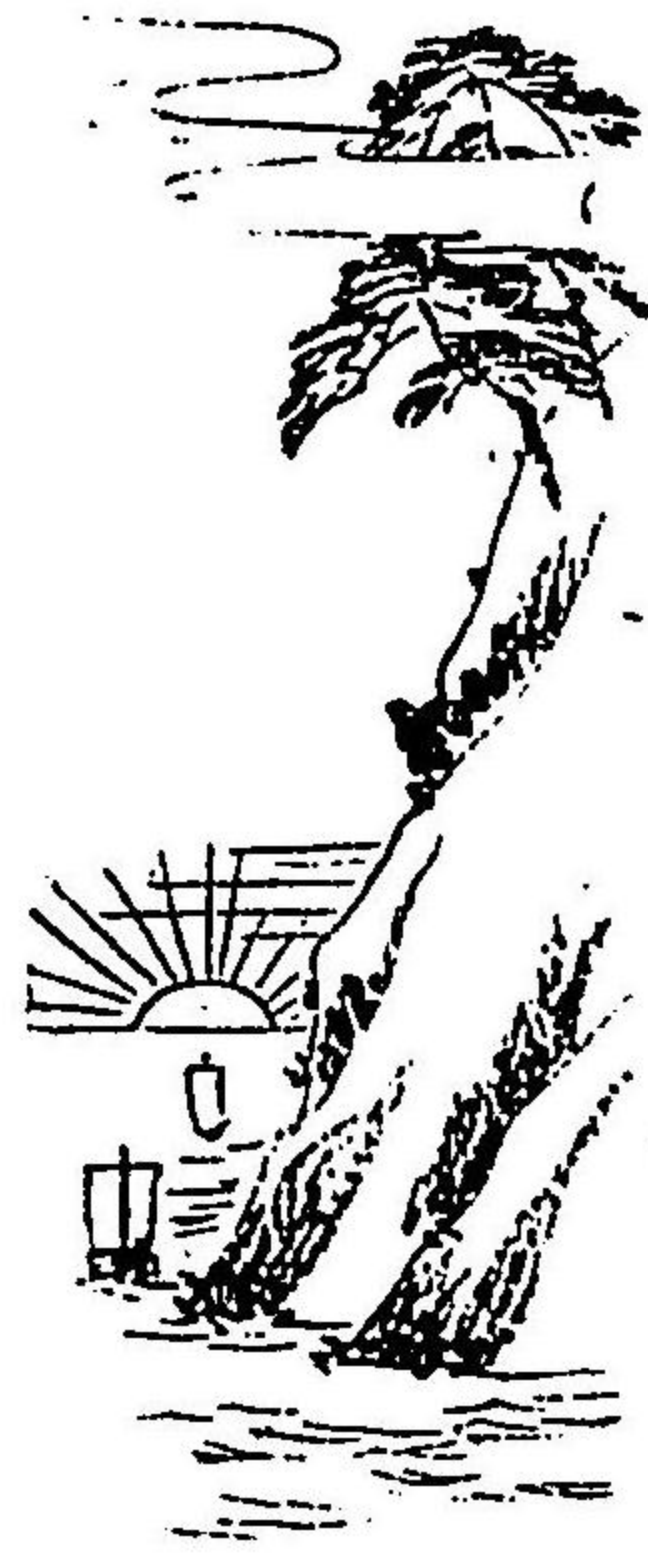
小供と山羊

初め和蘭人の殖民地であつたが葡萄牙人が来て和蘭人を驅逐したのである、しかし今は純然たる伯國人の市ではあるが

市民が市を誇とし「レシーフェ」が伯國般賑の都會なることに付て御自慢の鼻息中々荒い「ペナブコ」には新聞社もあり圖書館電話、電燈、市街鐵道、學校、大學、體操所、地學協會等の設備もある。

市場に行つて見ると中々完備したもので歐米の其れに遜色なき程なるが肉は極めて廉いピースターキ一斤十八錢肉も同様である羊肉と云へば此邊の羊も山羊も世界屈指の逸物を産するので山羊は其皮を輸出する爲に牧養するので米國では山羊の皮を製靴に用ゐるので此地方よりの輸出額夥しい巨額に上つてゐる或る種類の羊は

一般に此地方の小供の乗用で其柔き毛皮は乗心よきのみか小供が誤て落ちて、たかが小羊の事であるから大した怪我はないのである。



第九章 偉大なる「アマゾン」河

アマゾン河の
水色の
山

「マラジョ」島の南岸より世界河川の大王「アマゾン」河に入り流域沿岸の大都なる「パラ」市を経て八百哩を遡航すれば「アマゾン」の水色最も明媚の地点に達する汽船は南岸約半哩を距て、航進するが試に望遠鏡を採つて眺むればココアの林緑の雲の如くに茂れる中に金色無數の珠玉かと思ゆるココアの實の麗はしく實れるが見ゆる是は我々の飲料とするチョコレート原料となるのである其後に高く天空を彩りつゝ見渡す限りの熱帯樹木密生せるは所謂世界に名高き「アマゾン」の大森林である一方北岸は水漂茫として微に一條の緑

世界最大
の森林

の色空と水を畫つてゐるが是れもココアや森林でなからう？
「アマゾン」河の流域は疑もなく世界最大のものである其支流一千百
中に主なる八川の如きは一千哩の間汽船が航行し得るのである特
に「アマゾン」本流に至つては河口より「マナオス」支流「リオネグロ」の河
口邊まで大汽船が自由に航行するのであるから米國ならば大西洋
から「シカゴ」邊までの長距離が巨船航行の便があるのである「マナオ
ス」から更に小蒸氣船に乗り換へ伯國々境を超へて秘魯に入るを得
るから「アマゾン」の航行流域は海より西の方二千三百五十哩に達す
る譯である外に「マナオス」から「リオネグロ」河航行の汽船もあつて四
百七十哩も遡り得べく「アデイラ」よりの汽船が「ポリビヤ」國境まで通

うのであるから「アマゾン」本支流を合して汽船航行區間は總計現時
五千哩即ち日本の鐵道哩數に均しい譯だが實際に於て將來汽船の
通航し得べき哩數は約五萬哩と測量せられてある。
世界の何處を尋ねても「アマゾン」河畔の大平原ほど廣い所はない廣
野の幅七哩長二千四百哩而も他の谿谷の如く山に依て限られて居
らずして南に北に緩勾配となつてゐるから若し運河さへ作れば南
米の大川は悉く「アマゾン」に連結することは出来る様になつて居る、
例へば「パラナ」「パラゲー」の兩河は殆んど「アマゾン」に接觸せんばかり
であるから假りに「パラゲー」の本支流を上り詰めて少しの里程は已
を得ず小舟を陸送するとして更に「アマゾン」に之を浮ぶるときは容

易に大西洋に下ることが出来るのである南米の北部「グエネゼーラ」を流る「オリノコ」河と中間に位する「アマゾン」は事實上「カシクイア」ル「河」が連結して居るのであるから若し南の「パラグアイ」川と「アマゾン」さへ結び付ける短かき運河だに作る曉には南米北端の「カリビヤン」海より川によりて南米大陸の南端「亞爾然丁」の首都「ブエノズアイルス」邊に行くことが出来るのである。

大「アマゾン」河の水は黄色でドロ／＼と豆ソップの様に濃厚なれば木や草が浮て流れて居る甚だしきは四反歩もあらうかとも見ゆる島が草木の生へた儘流れて来て波のまに／＼浮きつ沈みつ海に出ることがある

濁流滾々

「アマゾン」の平原は河が流した泥で地層の表面を造つてある地質學者の説に據れば元來「ブラジル」の此邊は大平洋と大西洋を結び付けた海峡であつた即ち大古の南米は二部に分れ北は今の「グエネゼーラ」と「キヤナス」の高地で南は海峡を隔てて「ブラジル」は大島嶼となつてゐたのであつた所が西の海中から噴火して「アンデス」山脈が突起した爲に地盤も傾斜したから海の水は大洋に退いて「アマゾン」の河床となつたものであるげな。

されば「パラ」の市も此泥土を地盤とし「マラジョ」島の如きも「アマゾン」の運び出す泥の集つて出来たものであるが今でも此邊は毎年水害を受ける

「アマゾン」河上の中洲濁りに濁りて深り落つる河流より汽船が三角洲にかゝれば中洲の内には天然の溝渠縦横に通じて棕櫚や蘭科植物や護謨樹やらが鬱蒼と茂れる中を船の航進するときの涼風颯々たる其心地よきこと言はん方なく林間には鸚鵡や蝶や猿もあれば「アメリカ」虎や鱉も棲で居るけれども最も美事に感ずるは其植物である棕櫚の幹細くして丸さ人の腕位なるが亭々として高く眞直に延び五重の塔ほどの高さとなり、一本の下枝も生へずして頂に扇の如くに長さ枝を擴げたのもあれば中には根より短き枝を叢生して蹴鞠大のココア實の鈴の様に熟したのがある、しかし總ての植物は蔦に搦まれて森や林は蔓の網をなしてゐるから島に上陸して林に

入るには手斧を持たねば一步も進むことが出来ない。
吾々が西洋食料品の店で買ふブラジルナツの産するは此邊であつて到る處此胡桃を結ぶ樹を見ざるはない林の中に目に立つ喬木の多くは即ち此れである、ブラジルナツの大きさはベースボールの球の二倍程もあつて殻を破れば中に十五乃至二十の胡桃がある之は例の吾々の賞味するナツである。
中には花にて包まれた大木がある、白堊紫堊の集團が六十呎もある、木の天邊に咲き亂れ、バターカップに似た花を隙間なく持つた名の知れぬ木を遠く望めば周圍を縁に包まれ曲馬小屋の天幕の如く麗しう見ゆる而も更に一層賞でたきは蘭と金銀銅色様々の葉色あ

る植物である

アマゾン河畔の土人は河に沿ふて森を拓き漸く小屋を建てる丈けの地面を作つて屋根は棕櫚の葉にて葺き丸木の柱にて之を支へ籠に雨風を凌ぐ粗末の小舎ながら庭には芭蕉二三本密柑か棕櫚かを植へて楽しんでゐる人種は黒人か雑種で赤裸のまま河岸に立つて往來の汽船を眺め暮してゐるが彼等は護謨採取に従ふか、ココアを作るのであるが一般に貯蓄の念なく一見貧乏らしく見ゆる。彼等は年中此小舎に住むことが出来ぬ何故となれば雨期には此邊は洪水となるから山に退かねばならないのである。

アマゾン平原は世界中雨量の最も多い所である統計によれば一年

河畔の土人

アマゾン河畔の牧場

の雨量百五十万立方尺即ち一年に降る雨を溜めて置けば七十二寸位の水嵩さとなるほどであるが場所に依ると毎日雨降る所もある従て濕氣多く錆の早いこと夥しいからナイフ等は直ぐに赤くなる、油を能く塗つた短銃なども一夜明くれば濕りの爲めに發砲せぬ位であるから寫眞器なども赤錆とならざるを得ない。

日本の冬はアマゾン地方の雨季にして十一月から二月まではアマゾン河は平常の水準から三十尺も五十尺も水嵩を増すので漠々たる平原は一變して湖となり水は數月の間此地方を浸して島や中州は水に埋もれ大木の梢のみ僅に現はれるのである、さて水は全く退いても數ヶ月水の浸した所は樹木の育ちが悪く従て好個の牧場と

なるので是れが有名なるアマゾン河畔の牧野である。
聞く所に據れば「マラジヲ」島のみにて千頭の家畜が牧養せられてあるとやら。

以上述べたる状況なればアマゾン河畔の住民は小舟を以て最も必要なる交通機關としてゐる。汽船航行の途上沿岸の小舎を見るに「ポルト」の二三艘位繋いで居らぬ家は無い。獨木舟ありポルトあり中には小蒸溜もあるがペンキの色は鮮かな色で多くの小舟は屋根を張つて雨や日光を避ける仕掛をしてある。住民は蒸溜船の通る度々慌しく小舎を飛び出して来て岸に繋いだポルトを陸に引揚げてもあれば態ど沖に漕ぎ出るもある。是は汽船の通る餘波が小舟を顛覆せ

しめたり浸水せしめたりするを恐れからである。

「アマゾン」の森には道路はない唯一本の護謨樹から他の護謨樹まで人の通ふた小徑があるが旅行家は此小徑に據るは餘り迂回なるのみならず何處に出る路であるか解らないで土人すらも其のココアや護謨を市場に賣出すにも矢張小舟に頼るの外はない。

「アマゾン」河邊には「サンタレム」や「ポルトアレグレ」など幾多の都邑がある。「オビドス」は河畔に於ける有名の汽船發着地なるが此處は海より五百哩の河上にして河幅の最も狭い所である。河床の幅一哩位しかないから洋々として流れ來れる「アマゾン」は此地峽で湍かれて急奔直下水勢は惨じい勢に變じて汽船は錨のみでは流さるる爲綱で

ココア園

岸の立木に葉がねばならぬ、されば此邊は水深二百四十呎で如何に水勢の急なるかを察すべしである、「オビドス」より遡ればココア園が多くの數哩の間河を縁取りしてゐる、ココア樹は一寸シリラツクの藪の様に見へ樹の高さは十五呎から三十呎もあろうか枝は根元から叢生してゐて節の多いものなるが葉も實も枝から直く生へてゐるココアの實は橙色に赤の條ありて形は南瓜に似て堅い殻がある之を碎けば中に軟かい皮に包まれた種子がある、種子の心は油の多いもので此心のみを碎いたのは即ちチヨコレート皮を粉にしたのは即ちココアとなるのである。

チヨコレートココア係

ぬそれでも利益が多い、ココア樹は成木後三年を経て實を結び壽命は五十年位收穫は年二回手入は雜草を除くのみで肥料も何も要らぬ。

「アマゾン」のチヨコレートは世界有名の上等品で食物に贅澤な佛蘭人などは「アマゾン」のチヨコレートを嗜むこと非常なものであるが此邊の産額約五千噸「バラ」市から輸出する分のみにて一年七百万斤を超ゆるのである。

世界の逸品アマゾンチヨコレート



第十章 「アマゾン」平原の大都會

「アマゾン」邊は瘴癘流疫の未開地とばかり想ふてゐる人には大都會などとは片腹痛く感ずるであらうけれども實際此地方は商業般盛の場所で大都會があつて年に數百萬弗の輸出をするから致しかたはあるまい。

大都會と云へば先づ「バラ」市を數ふべく人口十萬其の發達の速かなる市を取り巻く熱帶植物の育ち易きに似てゐる「バラ」市は電燈電車電話もある劇場など立派なるものでホテルも歐米の第二流のものが二ツある程なれば都風の淫靡なることも夥しいコーヒー店には女

發達
バラ市の珈琲店の
女音樂隊

の音樂隊があつて夜間演奏する市の中央第一街には高等旅館があつて下等社會の娛樂場に供せられてゐる外に上流の俱樂部では一週二回舞踏を催して中流以上の家族が集り楽しむことや美しい公園の多いことやを観ると「バラ」市は決して厭な町ではないが唯黃熱の流行には閉口せざるを得ないので外國人などはポケットに防劑としてカスターオイルを離さず持つてゐても頭痛か不消化かの徴候あると直ぐ水呑コップで一盃カスターオイルを呑む程である。

港外より「バラ」市を眺望すれば扁平な白町で海岸には棕櫚が列をなし其後に大きな倉庫が見ゆる此倉庫から世界の護謨が輸出せらる

光景
バラ市の

るのである海岸には船檣林の如く歐米から来た外洋通ひの汽船もあれば鐵製の舢舨も帆船も獨木舟もあつて色の黎黒な船頭さんが彼處此處を漕ぎ廻るを見るであらう。

上陸すると成程南米屈指の繁榮地であると感じせらるる、黒人や雜種人が頭にゴムの大箱を載せて荷役してゐる其混雜は甚だしいもので白、黄、黒の各人種入り亂れつ「ジャマイカ」から来た銅墨色の人や、伯國の黄人種、淡黄の葡萄牙人や少數の歐洲各國人の集つた所、人種展覽會の趣がある。

労働者は帽なしで素足で、木綿のシャツに股引を着け、女は華な色のキヤラコを着てゐる。

ハムやゴムを運ぶ荷馬車絡驛として街路に絶へざる有様、數多の倉庫にはゴム充積のことで、空気が一種の臭氣を含んでゐる要するに「バラ」は世界の護謨市場でゴム産地に必要品を供給すること、ゴムの集散地たることは此繁榮の原因である。

けれども馬車を驅りて市民住宅のある町に行くに清潔を極め建築の見事なる伯國第一流に位する程である。

空氣の流通好さそうな煉瓦造りの建物外には畫壁を塗りこめたる數百の私宅が整列し、鋼製の見晴臺ある家もあれば、葡萄牙からの陶器を壁に塗りこめた所もある。

「バラ」市より「アマゾン」を遡る一千哩の「マナオス」市になると一層面白

「マナオス」は「アマゾン」大森林の真中に位するから野猿が枝から枝へ傳はり一千哩の間を地を踏まずに行かると云ふ深林に圍まれ斧を以て路を開いて行としても二里を行くに一日かかる程の林野の幾十萬哩の未開地の中心に位してある。

「マナオス」は「アマゾン」河に注ぐ「リオネグロ」河畔にあつて兩河の合する地點から十哩離れてゐるが「リオネグロ」の河水は墨の如く黒く「アマゾン」の水は豆スープの様に黄色であるから「アマゾン」に注いでからも兩河の水は暫く判然と色別して流れてゐる「リオネグロ」川の水の如く黒く見ゆるも試にバケツに汲んで見れば褐色であつて更にコップに注ぐと透明としか思はれない此川の下流は多くの湖水とな

つてゐて其深さは百呎乃至百五十呎あるが所々に淺瀬で雨季水深三四十呎となるまでは航海困難である沿岸はココア園の外は森林のみ、北岸の丘上に「マナオス」あつて中々大きな都會に見ゆる近づくに従つて巨大な建物は次第に現はれる商館などの宏壯のもの少からぬ中に特に劇場の華麗は目立つたもので二千人を入るゝに足り國庫の補助を受け「バラ」や他の伯國都會から興行を招くので興行日數は少くも一週間位で曲馬などを聘するに政府は一ヶ月位の興行を保證することがあるとやら。

「マナオス」には紐育から「バラ」を経て「マナオス」に來る汽船もある航海

日數二週間乗客運賃九十弗で吃水は十六呎位のもの外に「リスボン」や「リヴァールプール」「ハンブルヒ」から瀛船が寄港し秘魯「イクイトス」に行く瀛船は「マナオス」から七日を要する「イクイトス」は「マナオス」の西千三百哩である「イクイトス」は「ゴム」輸出を以て有名なる大港であるが「マナオス」からは三十弗の運賃を要す。

「マナオス」からは「リオプランコ」川や其の他の諸川に航行する瀛船多いから「アマゾン」の上流には何處でも行けるが重なる瀛船會社は「アマゾン」瀛船航行會社として一八五三年の設立に係るものである其所有瀛船は大概五百噸内外で英國で建造された船が多い隻數二十九一年の航海哩數五十萬哩此外に伯國の瀛船會社があつて十二艘の

瀛船一萬三千噸を有したのである。

「アナオス」の人口は五萬重に伯國人と葡人と英獨米人も少しはある重にゴム産地に物貨を供給するを業とし商賣は中々手廣く商品の數十萬弗ある店は稀らしくない。

こんな奥の「マナオス」ながら文明的設備がある街路は一千哩も下流から持つて來た圓石で敷きつめ寺院學校博物館孤兒院もあり電燈、電話は勿論「アメリカ」のシンジケートの手に成る電車も出來た程である。



第十一章 護謨採取場

現世紀は護謨工業の時代となつた而して「アマゾン」は其本場である。「アマゾン」護謨は最上のゴムで其の産額は夥いもので世界各国はゴムの供給を茲に仰がねばならないから言はゞ「バラ」市に租税を拂はぬ國はないので最初ゴムは印度に産した爲に今尙ほ印度護謨の稱ある位であるが其効用を發見したのは今を去ること百七十年程前即ち一七三六年であつたけれども其から八十年許りの間はゴムの用途は僅に鉛筆で書たものを消す位に止つたものが一八二三年に至りマツキントツシユ氏は護謨引防水布を發明し一八四三年には

米人グードエー氏は硫黄を用ゐてゴムを固めることを考へた其れから色々の發明が次で起つて今日に於ては如何なる産業でも技術でも多少のゴムを用ぬ者はないと云ふ有様となつたのである、吾々は種々の形にてゴムを用ゐる馬車や自轉車のタイヤとなつて乗心地よくするのもゴムである防水布や靴蔽にするのも亦是であるニユール英蘭の工場では一日オヴァーシュー三萬足を製造する近來ポストンにて四百萬足の靴蔽を競賣にかけて賣つたことがある外にズボン釣りや靴下めや種々の用途があるが米國ではゴムのズボン釣を用ゐる男子は二千人外に同數の女性は襪紐にゴムを用ゐて居ることである。

ゴムの會社

ゴム採取地は「アマゾン」及其支流の通ずる一帯の地に亘り廣袤稍々合衆國の三分の一に當る地方にある最上の護謨樹は畔河の毎年洪水を受ける場所に在るので個人の所有なるが多くは大會社の支配する所となつた例へば英國のアマゾナス會社の如きは九萬エーカーの地面を有つてゐる英國護謨會社は三十萬本のゴム樹を所有し其地面十八萬二千エーカー第三は亞米利加ゴム、トラストである、ゴム採取地の地主は多分「バラ」と「マナオス」に住んでゐる殆んど總てのゴム地は此兩市のものご云ふも差支ない實際にゴムを取る會社も個人も此地主に多少の負債なきはない會社の或るものは黒人を使つてゐるが實際は奴隸使役の昔を見る如くピストルの銃口を向

ゴム園の労働問題

ゴムの造れる町

けて逐ひ使ふのである。要するに労働問題はゴム採取地に於ける最も重大なる問題であるゴムの産地は流疫多く不健康地で白人の労働者は續々仆れる今日尙ほ採取を繼續するは單に主人の恐喝的威力に頼るからである。言はゞ護謨が「アマゾン」河口に十萬の人口を有する「バラ」市を造つた様なものである、市民はゴムを賣買しゴム採取場へ需要品を賣込んで以て今日の繁榮と富を造つたに外ならない政府も亦輸出ゴム一斤に就て二割五分の關稅を課して豊富なる財源としてゐるのである。「バラ」に上陸して先づ想はるゝは自分はゴム商人に圍まれて居るな

と云ふ感^{かん}を起^{おこ}す市^しの貿易商^{ぼうえきしょう}の居住^{すま}する場所^{ばしよ}に往^ゆくと丸^{まる}で喫煙室^{きつえんしつ}に入^いつた様^{よう}でゴムを仕^し上^あげるに薫^{かほ}ぶる香^{かほり}が烈^{はげ}しく鼻^{はな}を衝^つく、
 ゴムを採^{さい}取^{しゆ}場^ばから小舟^{こふね}に積^つんで持^もて來^くるのを見^みると其塊^{そのかたまり}の形^{かたち}はハ
 ムに似^にて香^{におほ}も田舎^{いなか}製^{せい}のハムの様^{よう}であるが其れを地^ち上^{じやう}に投^なげると幾^{いく}
 度^ども地^ち上^{じやう}に跳^はね上^あり果^はては轉^{ころ}がり回^まるからゴムの塊^{かたまり}なること分^わ
 かる位^{くらい}である倉庫^{そうこ}では此塊^{このかたまり}を切^きり刻^きみ三^{さん}百^{ひゃく}斤^{じん}入^{いり}の箱^{はこ}に詰^つめて歐^あ米^{まい}
 に輸^ゆ出^{しゆつ}するのである。

如何^{いか}に
 ゴムに
 製^{せい}せ
 らる^{らる}か

けれど一^{いっ}歩^ぽ進^{すす}んでゴムは如何^{いか}にして製^{つく}らるゝかを知^しるには市^しを
 去^さり採^{さい}取^{しゆ}場^ばたる森^{しん}林^{りん}に行^ゆかねばならぬ樹^きは概^{おほ}ね六^{ろく}十^{じゆ}呎^ふ位^いの高^{たか}さで
 幹^{みき}の色^{いろ}は銀^{ぎん}鼠^{ねず}色^{いろ}を帯^たび採^{さい}取^{しゆ}の爲^{ため}穴^{あな}を穿^うたれて黒^{くろ}くなつてゐる大^{おほ}
 さは人^{ひと}の腰^{こし}の回^まり位^{くらい}なものだが採^{さい}取^{しゆ}された跡^{あと}は膨^はれて根^ね元^{もと}など非^ひ
 常^{じょう}に大^{おほ}い。

八^{はち}月^{げつ}には小^こさい白^{しろ}い花^{はな}が咲^さき十二^{じふに}月^{げつ}から一^{いっ}月^{げつ}には胡^こ桃^{とう}の様^{よう}な實^みを
 結^{むす}び熟^{じやく}すると花^{はな}火^びの様^{よう}な響^{ひび}をしながら殻^{から}が破^われて實^みを撥^はき出^だす、ゴ
 ム樹^{じゆ}は容^{よう}易^いに肥^ひ沃^{わく}の地^ちに育^まつ別^{べつ}に耕^{かう}作^{さく}を要^よせぬが採^{さい}取^{しゆ}に適^{てき}するに
 は十五^{じふご}年^{ねん}乃^な至^し二十^{にじゆ}年^{ねん}を要^よする。
 扱^さてゴムは此^{この}樹^きの汁^{じゆ}より製^{せい}するので幹^{みき}に斧^{たの}か鉞^{きり}で幹^{みき}の中^{なか}身^みを傷^きつ
 ぬ様^{よう}に樹^か皮^はのみに傷^きを付^つけ手^て斧^のを引^ひくや否^{いな}や牛^{ぎゆう}乳^{にゅう}色^{いろ}の汁^{じゆ}が湧^わき出^で
 之^{これ}を亞^あ鉛^{いん}の盃^{さかづき}に受^うけて貯^{たくわ}へながら一^{いっ}本^{ぽん}の樹^きに四^し五^ごヶ所^{しよ}も傷^きつけては
 他^{ほか}の木^きに移^{うつ}る。

朝は汗が最も能く出るが晝から夕にかけては中々採れぬ許りか空
 氣は汗を凝結せしめて傷口が塞がつて仕舞うことが多い。

採取中の護謨樹は一見爛れた傷の様に見ゆる本來は麗はしい滑か
 な銀鼠色の幹は瘤と傷とで脹れ上るのみか傷口が閉ぢるとゴム木
 の涙とも云ふべき黄色の汗が出る之もゴムの原料として彼の乳色
 の汁より二割乃至五割安にて賣買せらるゝのである斯くの如くで
 あるから若し人が木の下に立つて採收でもして居らねばゴムの木
 とは知らずに通るであらうし又ゴム樹は彼處に一本此處に一本と
 云ふ風に森の間に散在してゐてゴム林と云ふものはないけれども
 六十本から百本位づゝを一區畫として採收人一人づゝの受持と定

めて置くのである。

次は蒸蒸の法である例の乳の様な汁は採收の日蒸蒸せねばならぬ
 尤も唯空氣に曝らした許りでも凝固はするが蒸蒸法によりて最も
 よく固まるものである採取場には土竈があつて下に棕櫚の殻など
 を焚き烟を揚げて其中にゴム汁をしたした杓子を蒸らすと汁は固
 まる同時に又汁の椀に杓子を入れて亦汁を着けては烟の中に乾す
 かくしてゴムは次第に層を爲し遂に丸い塊となるので同時に烟の
 爲に黄か褐色に變ずる譯であるけれどもこんな有様ではゴムの樹
 は遂に枯れ絶ゆるの時期は來はせぬか當業者は其の虞はないと云
 ふ勿論目下ゴム園を作る計畫もある長期に亘る事業ながら耕作の

費用が少く収入の年月も久しいから永遠の事業としては屈強のものであらう。



第十二章

何んと言ふても「ブラジル」は進歩發達の新開國で將來世界最富の強國として宇内に雄飛すべきは疑なき所である漸く發達し初めた今日に於てすら一年の貿易輸入額二億萬圓輸出總額二億五千萬圓しかも面積は合衆國に均しく耕作に適する平地は米國よりも更に廣い合衆國のほご開發せられぬ丈け我々日本人の發展すべき餘地甚だ廣い道理である。

見よ如何に電燈電車を始め鐵道の事業に峻々として進みつゝあるかを抜目なき獨逸人はシンジゲートより代表者を派して盛んに敷

設権の獲得に奔走し既に「リヨ」府にては「グイライサベラ」街鐵を敷設し「サンパウロ」の線路を買収し進んで「ベルナムブマ」の電鐵を收むるの勢ではないか我が資本家も手近い朝鮮や滿州のみを獵らずして一步踏み出して伯國の大舞臺に大事業を試みてもらいたいものである。

電鐵の如きは何の會社も利益が多い鐵道も迅速なる發達を遂げ今や九十哩を超へた鐵道業は英人によりて經營せらるるが多い伯國政府も三千餘哩を所有してゐるが官有鐵道は成績頗る悪い是れは官吏が私腹を肥す悪弊の結果であるされば政府は近來法律を發布して官有鐵道の民間貸下を許すこととした今日の形勢にては伯國

世界最大
利益鐵道

官鐵は遂に英國資本家のものとなるらしい。

伯國政府は私設鐵道に對し六七朱の補給利子を付するの例なるが世界に於ける最も利益多き鐵道は「ブラジル」にある即ち「サントース」港より「ジュンデアーイ」に至る山地を登攀する鐵道で配當は二割より五割に達する有様最初五朱の補給利子を受ける約束で二千万圓の資本にて開業し増資して三千万圓となり今は五千六百萬圓の大鐵道となつて頻りに複線工事をやつた此鐵道は年一億五千万圓の貨物を吞吐する「サントース」港と内地との間に於ける唯一の交通線である。

伯國の鐵道は日本の如く一二三等の客車を備へブルマンのボギー

車を用ゐてゐるが寢臺車の設備あるは少い手荷物手提革囊のみ無賃で外は運賃をとるそして破損し易きもの又は荷造の不完全のものは預からぬから是は不便と云はざるを得ない。

伯國の海運業は歐洲汽船業者の掌握する所で若し競争船が現はれば彼等は同盟して十分の一位まで運賃の大引下げを斷行して競争船を弱らせ遂に驅逐した後に亦運賃を復舊する此筆法で米國船などを苦しめたものである。

米國船を伯國海運界より首尾よく排斥したる歐洲船主は米國と伯國間の運賃のみを引上げた結果米國品は實際低廉であるに拘らず運賃の爲め却て歐洲輸入品より割高となる様になつたので直接紐

育から「リヨデジャネロ」に小麥を輸入するよりは寧ろ紐育から「ハンブルヒ」を経て「リヨ」に廻す方が里數が三千哩を迂回するにも不拘運賃は却て廉いと云ふ變態を來して居る伯國駐在米國總領事シーガ一氏の言に據れば米伯間の運賃非常に高い爲め「サンパウロ」邊では米國鐵類の本國直段低廉なるにも拘らず歐洲鐵を輸入せざるを得ない小麥の如きも「ハンブルヒ」より「リヨ」まで一バーレルに付き一圓四十錢弱の運賃であるのに紐育から「リヨ」まで一圓七十錢を拂はねばならぬ此方法は總ての米國品に適用せらるる歐洲の海運政策である要するに英獨とも米國の對伯貿易の伸張を恐れ盛んに對抗の方法を講じてゐるが特に例の獨逸の如きは米國品を摸擬するのみ

か商標も似寄りのものを用ゐる程である。然れども獨逸商人の伯國に於ける刻下の成功は華々しいものである、如何なる市邑にも獨逸商人を見ざるはなく南ブラジルに於て根據を固めて彼等は今や北部にも侵入して「バラ市」の如きすら獨逸商人の勢力は逐年増加の一方である彼等は「アマゾン」の上流に護謨採取場を有するのみか「エクエドール」の國境にも數多の商館を設けた彼等は亦銀行業に於ても成功し伯國には資本四百萬圓の銀行、亞爾然丁には八百萬圓の銀行、智利にも資本二百萬圓の銀行を有つてゐる。

獨逸人の南米に於ける企業は獨り之のみに止まらぬ智利にては確

石事業を買収し「ヅエネゼーラ」にても鐵道に投資した數へ來れば獨逸人の南米經營は大小幾千殆んど枚舉に遑あらずと云ふ外はない珈琲店や麥酒釀造業などは南米大陸の一角より他の一角まで彼等の手を延し盡してゐる所で橡皮業にも勢力を得つゝある。

彼等は亦活潑に内地に踏み込んで商賣を開拓する「ポリヅイヤ」の僻邑にも秘魯の山村にも彼等の姿を認めぬことはない此業の獨逸行商は數年南米に生活した者多く葡萄牙語も西班牙語も話せるのみならず地方の人氣も商賣の手心も暗んじてゐるから氣輕に商賣をして些の利益に満足し五ヶ月が半年の掛賣の便を與へ品物を渡して代金の催促を嚴しくせぬ。

伯國の銀行は今日の所多く歐洲資本によりて營まれてゐるが將來日伯貿易の發達に連れて確に有望と考へらるる貸附利率は約一割であるが月一朱乃至二朱にても確實の擔保を取つて貸附が行はれて居るから銀行は孰れも好成績を擧げてゐる。最も有望と考へる事業の一は伯國に冷蔵庫を設けることである伯國の都會には冷蔵庫がない爲め肉類でも二日と持越すとは六ヶしい従て屠つた牛も其日の内に賣り盡さねばならぬ勿論警察が嚴重に取締つて持越の肉を賣るを許さぬされば牛肉などは一日の内幾度も直段が變る肉屋の店頭には石盤が吊つてあつて例へば朝七時に一斤十六錢のものが正午には下落して八錢と書き直さる有様な

れば乾肉は鮮肉より直段の高いのは致方ないで冷蔵庫を建てて肉や卵や菜果類を貯蓄して居る途を開けは確に成功するは疑ないのである。

我々日本人も嶺南たる島帝國に踰跨して瑠珠の利に汲々たらんよりは五大洲を跨にかける意氣組を以て金ある者は資本を携へ資本なき者は強健なる身體と堅固なる志操を元手として伯國に乗り出しては如何乎。

職を求むる人よ志を海内に得ざるの人よ徒らに軼軻落魄の生涯を送りて空しく醉生夢死せんよりは奮つて伯國大天地に根限りの活動を試み自家の運命をためとうではないか諸君の成功は獨り諸君

自身の光榮福利に留まるものではない一人の日本人の立身榮達は活ける手本輝く光明となつて將來幾千万の神國男子を伯國に引き付けるに相違ない今日伯國の大勢力なる葡萄牙の伯國殖民史を讀んで見ても始めは田舎の水呑百姓五六人が帆前船などで思ひ切つて伯國に渡航し數年辛抱して幾万の金を懐にして歸り渡航前賣拂つて旅費にして住み馴れた小家を買戻し取毀つて其跡に堂々たる洋館を建て田畑を買入れて瞬く間に故郷の大地主となつて見せたのである之を實地に見た近郷近在の血氣の若者はいで我も我も伯國に推し渡り先輩に劣らじと蓄財を力め金を懐にして歸國するもあれば伯國の風土を愛して土着の民と化するもあり次第に今日

の大發展をしたもので今や日出の勢ある伯國の獨逸人とても伯國に手を染めたのは至つて近頃の事である。人口日々に繁殖して領土の擴張は之に伴はざる以上産業の進歩多少見るべきものあるにせよ海外に好殖民地を求めずんば日本民族の發達の程度は知れ切つたものと云はねばならぬ。苟も强健の軀軀ある者は起て!!而して一身一家一國の爲自由開放の南米の大國に華々しく奮闘して譽ある歴史を殘せ歐洲新進の獨逸人と絶東日出の新興國民と肩を並べて平和の産業戰場に鎬を削りて闘ふも男子一生の最大快事である葡萄牙人伊太利人の村落の間に伍して森を拓き溝を通し珈琲園に米田に紡績に織布に各自家

の技術を發揮して理想の日本村を建設し二十世紀の山田長政たり若しくは南米一角の小帝王たるも確に日本男子の壯絶快絶の偉業である。

廣く世界を見渡し伯國の如く地味肥へ而も政府が排外思想ごころか却て外人招來に勉め産物多く富の程度は進む一方各國民の自由競争に放任して毫も自他の區別なく土地の所有權さへも進んで外人に與ふる好殖民は決して他を求めて何處にもあるものでない今日こそ「マゼラン」海峡を迂回するか若しくは地中海を経て大西洋を南下するか或は喜望峯を経て北上するが如き多少交通の不便こそあれ「パナマ」運河開通せば伯國は今日對岸の桑港「シヤートル」邊と毫

も撰ぶなき近隣の國となるのである其時になつては既に遅い獨逸も英米も葡伊亞も充分手を延ばし根を据へた頃となるけれども今日は漠々たる萬里の沃野が快活なる日本健兒の手によりて開拓せられんことを待つてゐる白人の手を染むるに遑なき遺利知られざる天與の寶藏が到る處に残つて居る要するに一日を人に先んじて伯國に上陸するものは夫れ丈多くの利益を得るものと云はねばならぬ而して自分は風土氣候地味の諸點より特に「南ブラジル」を以て志ある有爲の諸氏が奮闘發展の好舞臺として推薦するものである。

(完)

3/14/45

明治四十年六月一日印刷
明治四十年六月四日發行

不許複製

著作兼發行者

印刷者

印刷所

定價金三拾五錢

神戶市與平野百五番地
中島鐵哉

東京市麴町區下六番町十七番地
松澤紅三

東京市麴町區下六番町十七番地
同勞舍

【電話番町三六九番】

東京市神田區表神保町二番地

發賣所 中西屋書店

電話本局(長)四二〇及二〇一九
郵便振替貯金口座二八一六番

特約販賣所

大阪市東區博勞町四丁目

丸善支社書店

同 市東區南渡邊町

杉本書店

久留米市米屋町

菊竹書店

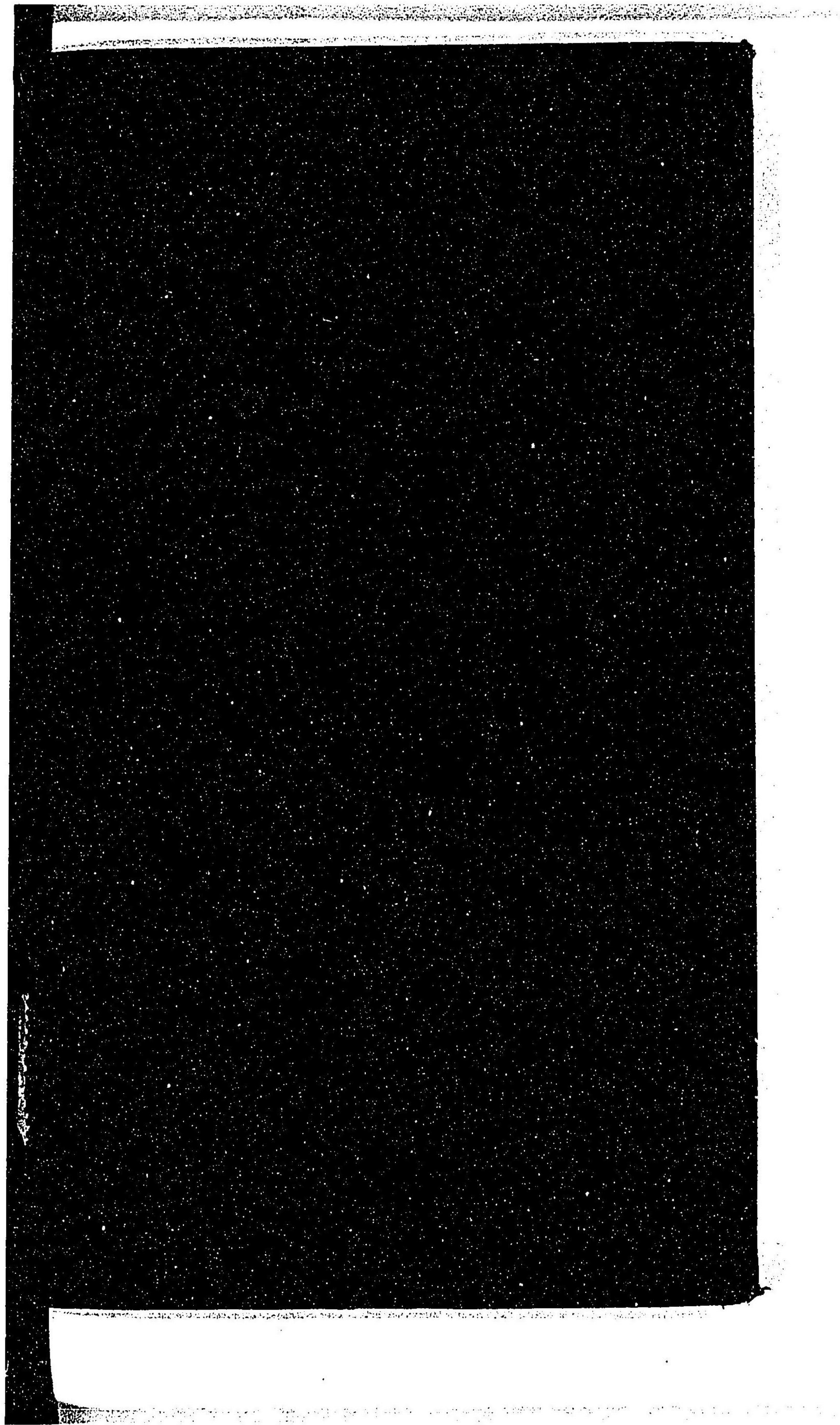
熊本市新貳丁目

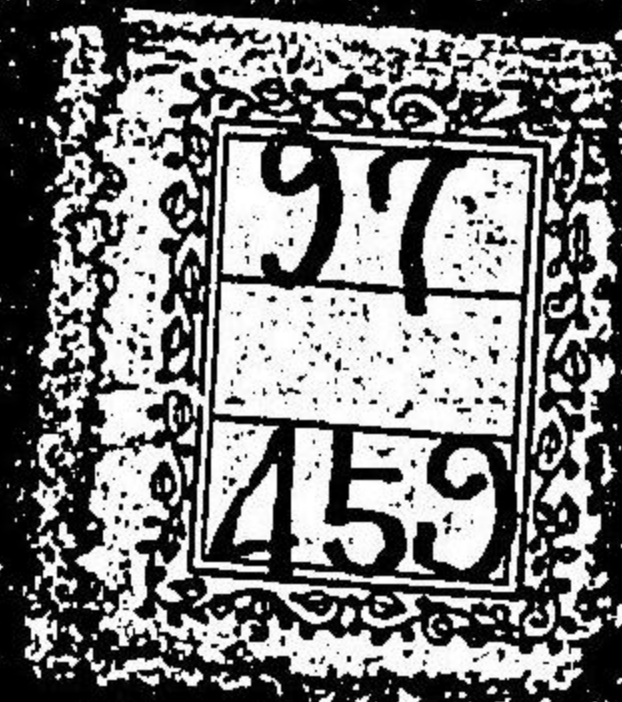
長崎本店

橫濱市辨天通貳丁目

丸屋書店

97
459





026886-000-4

97-459

今のブラジル

中島 鉄哉/著

M40

ADG-0002

